327
669

理蕃策原議

大津麟平

国立国会図書館

始

人工 2B-76

329
669

理蕃策原議

327-669

目次

第一　緒言　一
第二　理蕃事業ノ沿革　二
第三　理蕃方針ノ確立　四
第四　蕃界ノ地勢　八
第五　蕃人ノ狀況　九
第六　理蕃計畫ノ成立　一一
甲　威壓策　一一
一　討伐　一一
二　隘勇線設置　一五
三　物品供給制限　一六
四　一般警察的取締　一九
乙　懷柔策　二三

著者寄贈本

大正
3.11.2
寄贈

一　授産　二
二　教育　二六
三　布教　二九
四　物品交換　三二
五　醫療　三五
六　觀光　三六
七　一般警察的保護　三七
第七　結論　四〇
第八　餘論　四〇
徐論ノ參照　四七
五〇

理蕃策原議

大津麟平述

第一　緒言

臺灣ノ蕃族ハ帝國ノ誇リナリ。明治時代ニ於ケル偉業ノ好記念ナリ。豈ニ之カ統治經營ヲ完フシテ、以テ有終ノ美ヲナサヽルヘケンヤ。是レ理蕃事業ノ起ル所以ナリ。而シテ理蕃ノ事業タルヤ、之ヲ規畫スルコト容易ノ業ニアラス。何トナレハ、其ノ事業ノ性質甚タ奇異ニシテ、其範圍頗ル茫漠タレハナリ。之ニ對シテハ、他ノ政治ノ要素タル法律經濟教育等ノ如ク教科書アルニアラス、先人ノ理論アルニアラス。又古來實行シタル經驗ノ詳細ナル記錄アルニアラス。故ニ幾ント創設的ニシテ、單ニ當局者ノ實地經驗ニ依テ、方針計畫ヲ定ムルノ外ナキヲ以テナリ。予理蕃事業ニ從事シタルノ初メ、其ノ方針ノ未タ定マラサルヲ嘆シ、從テ其ノ終局ノ收メ得ラレサルヘキヲ憂ヒ、自ラ魯鈍ヲ鞭撻シ、屢々蕃地ニ出入シテ實況ヲ見聞シ、近クハ現從事者ノ忠勇ニ激セラレ、遠クハ理蕃ノ爲ニ犧牲トナリタル幾多ノ義人ノ遺志ヲ追想シ、又古來施政者苦心經營ノ跡ヲ鑑ミ、又稀少ナカラ東西理蕃ノ記錄傳聞等ヲ參酌シ、以テ立案シタルモノ、此ノ理蕃策ナリ。予不肖短才素ヨリ此ノ重任ニ當ルニ足ラスト雖モ、既ニ命ヲ受ケタル以上ハ、微力ヲ盡シテ以テ總督ノ恩顧ニ酬

インコトヲ期シタルナリ。

予ヤ、臺灣ニ奉職スルコト十八年、其ノ間理蕃ニ從事スルコト八年、日夜努力シタリト雖モ、遂ニ卑見ノ容レラルヽニ至ラス、寸效ヲ致スコト能ハス。事業未タ全ク成ラスシテ、病ヲ以テ此ノ職ヲ辭スルノ己ムヲ得サルニ至レルハ、遺憾ニ堪ヘサルナリ。

今當局ノ要求ニ依リ、倉卒筆ヲ執リ、此ノ編ヲ草シ、理蕃策原議ト題シテ之ヲ提出ス。用辭粗野、行文拙劣ニシテ、意ヲ悉クスコト能ハス。他日機會ヲ得テ、更ニ補充スル所アラントス。

第二　理蕃事業ノ沿革

支那人カ臺灣ニ移住セサル以前ハ、本島ノ平地山地共ニ蠻族ノ住居タリシハ明カニシテ、平地ニ蠻人ノ住居シタルコトハ、今猶ホ平地支那人種部落ノ間ニ、熟蕃部落トシテ其ノ遺族ノ點々殘存スルヲ見テモ知ルヘク、又山中ニ蕃族ノ古來住居シタルコトハ、今日山中隨所ニ石器ノ發見セラル、ヲ以テ證トナスヘシ。此ノ如ク古代ニ於テハ、臺灣ノ山地平地共ニ蕃族ニヨリテ占居セラレタルハ明カナリ。此ノ蕃族集團ノ地ニ向テ移住ヲ始メタル支那人ニ對シテハ、對蕃策ハ最大問題タリシコト論ヲ俟タスシテ、民蕃接觸問題ノ爲ニ惱マサレタルコトヲ、歷史カ告白スルハ怪シムニ足ラス。然リト雖モ理蕃事業カ平地ニ止マリシ間ハ、其ノ事業ハ比較的單純ニ、其ノ困難ハ尙ホ比較的輕少ニシテ、進捗モ亦蓋シ速ナリシナルヘシ。既ニ平地ヲ鎭定シテ、

山地ニ移ラントスルニ及ンテハ其ノ進捗前日ノ如クナラス、其ノ困難ハ昔日ニ數倍シ其ノ施設ハ複雜トナルノ止ムヲ得サルニ至リシモノナラント信ス。山地ニ對スル支那政府ノ理蕃策ハ、或ハ討伐ニ、或ハ懷柔ニ、共ニ力ヲ盡シタルカ如キモ、其ノ效果ノ今日ニ遺レルモノハ甚タ少シ。沈葆禎劉銘傳ノ如キハ、最モ理蕃經營ニ苦心努力シタルモノニシテ、蕃地ヲ橫斷シテ、東西兩海岸ヲ連絡スヘキ三條ノ大道路ヲ開鑿シ、新ニ理蕃機關ヲ各所ニ設ケ、又蕃地各方面ニ兵ヲ進メテ軍隊ヲ駐屯セシメタルカ如キ、支那政府トシテハ雄大ナル計畫ヲ立テ、果敢ニ之ヲ實行シタルモノアリト雖モ、未タ幾何ナラスシテ、生蕃ノ襲擊ノ爲メニ其ノ兵營ハ顚覆セラレ、其ノ兵士ハ塵殺セラル、ノ慘狀ヲ呈セリ、其ノ後清政府ノ理蕃方針變更ノ爲メ、蕃政振ハスシテ、明治二十八年我帝國ハ、此ノ臺灣ヲ讓リ受クルニ至レリ。其ノ讓與ノ際ニ於テ、清本國ニ引揚ケントスル支那敗兵ノ携帶セシ銃器彈藥ヲ、蕃人ニ投與シタル數ハ、實ニ莫大ナリシモノ、如ク、理蕃策ハ之カ爲ニ、一層ノ困難ヲ增加シタリト云フヘシ。聞ク、馬關條約締結ノ際、李鴻章ハ伊藤公ニ語ツテ、臺灣ニ生蕃アリ。貴邦ノ大ニ煩タルヘシト云ヒ、伊藤公ハ弊邦ハ弊邦ノ見ル處アリ、貴懷ヲ勞スル勿レ、ト答ヘタリト云フ。理蕃ノ重要視セラレタルコト以テ見ルヘキナリ。

臺灣蕃地ハ、此ノ如キ狀況ニ在ツテ、我邦ノ領有ニ歸セリ。而シテ領臺ノ始メニ於テハ、臺灣總督府ノ理蕃政策ハ、專ラ懷柔主義ヲ取レリ。而モ時アリテ、討伐ヲ行ヒタルコトアルモ、此ハ例外ノ場合ニシテ懷柔ヲ主トシタルコトハ疑フヘカラス。甚タシキハ巨多ノ銃器彈藥ヲ蕃人ニ惠與シ、又商人ニ許可ヲ與ヘテ、蕃

地ニ銃器彈藥供給ノ貿易店ヲ開カシメタルコトアリ。是レ當時相當ノ理由ノ存シタレハナラン。蓋シ當時政府ノ見ル處ニテハ、前キニ支那政府ハ徒ニ蕃人ニ壓迫ヲ加ヘタルカ爲ニ、反抗ヲ招キタルモノナリ。蕃人ハ純朴ニシテ、稚氣愛スヘキモノアリ。如カス其ノ歡心ヲ買ヒ勉メテ其ノ感情ヲ柔ケ、化育ヲ以テ理蕃ノ效ヲ收メンニハトノ意嚮ナリシナラン。然ルニ歡心ヲ求ムルニ努メタル結果、卻テ輕侮ノ念ヲ誘起シ、驕傲心ヲ增長セシムルノ傾ヲ生シ、日本人ニ對スル反抗行爲、各所ニ續發スルニ至レリ。去レハ總督府ニ於テモ、蕃人ノ必スシモ懷柔ノミニ依テ化育ノ效ヲ全フシ難キコトハ、夙ニ看取シタルモノ、如シ。然レトモ如何センヤ當時平地ニハ、土匪跋扈シ、其ノ掃蕩ニ全力ヲ盡サントスルノ際ニシテ、若シ蕃人ト土匪ヲシテ相提携セシムルカ如キコトアラハ、土匪ノ廓清何レノ日ニアルカ、測ルヘカラサルモノアリ。土匪ノ掃蕩ハ一日モ忽セニスヘカラサルヲ以テ、姑息ト知リツヽ、蕃人ノ懷柔ニ努メタルハ、又已ムヲ得サルモノニシテ、當時ニ於テハ無上ノ良策ナリシナラン。今日平地ノ平安ヲ得タルハ、實ニ其ノ政策ノ結果ト云フモ敢テ誣言ニアラスト信スルモノナリ。總督府ハ此ノ如クニシテ、懷柔ノ方策ヲ繼續シテ、土匪鎮定ノ時期ヲ俟チツヽアリタルモノヽ如シ。

第三　理蕃方針ノ確立

明治三十五年土匪鎮定シテヨリ、總督府ハ漸ク力ヲ理蕃ニ用フルコトヲ得ルニ至リタルヲ以テ、從來ノ懷柔策ニ威壓策ヲ加味シテ、理蕃事業ノ進捗ヲ圖リ、北蕃ニ對シテハ威壓ヲ主トシテ懷柔ヲ從トシ、南蕃ニ對シテハ懷柔ヲ主トシテ威壓ヲ從トスルノ主義稍〻成立セリ。

然リト雖モ、其ノ威壓ナルモノヽ、古來屢〻之ヲ用ヒタルコトアルモ、確實ニ效果ヲ收メタルコト少クシテ、蕃人カ兇行ヲ再ヒセサル迄ニ歸順シタルノ例ハ甚タ乏シクシテ、其ノ結果曖昧ニ歸着スルコト多ク、懷柔ノ如キモ亦然リ。明確ナル效果ヲ收ムルコト能ハス。威壓、懷柔共ニ定見ナクシテ臨機應變ノ處置ヲ取リツヽアリシモノナリ。予ハ此ノ際ニ於テ、理蕃事業擔任ヲ命セラル、實ニ明治三十九年ナリ。此ヨリ專ラ理蕃事業ヲ完成センコトヲ期シ、微力ヲ盡シテ事ニ從ヘリ。予ハ從事ノ當初ニ於テ事業ニ一定ノ方針ナキコトヲ認メタリ、解決點ヲ定メスシテ、徒ニ努力シツヽアルモノヽ如ク、例ヘハ到著點ヲ豫定セスンテ、船ノ操縱ニ腐心シツヽアルモノヽ如ク見受ケタリ。予思ヘラク、此ノ如クニシテ進行セハ、何レノ日ニカ蕃界ノ廓清ヲ見ルヲ得ンヤ、又如何ニシテカ理蕃事業ノ段落ヲ告クルヲ得ルヤト。依テ予ハ事業推進ノ目標ヲ定ムルハ、最モ緊要ニシテ且急務ナリト覺悟セリ。攷々研究ノ下遂ニ把握シタルモノハ、蕃人ノ銃器ナリ。蕃人ノ最大ナル煩ハ銃器ニアリ、銃器ナケレハ蕃人ヲ御スル易々タルノミ。之ニ反シテ銃器彼等ノ手ニ存スル間ハ、例令ヒ一旦歸順スルモ、未タ全ク信スヘカラス、蕃地ノ平定ト稱シ難キナリ、銃器ハ實ニ理蕃ノ解決點タラサルヘカラス、銃器處分ヲ以テ、理蕃ノ第一段落トナサヽル可カラスト思惟セリ。然ルニ銃器ハ實ニ蕃人ノ最モ貴重スル所ニシテ、猶ホ狩獵時代ヲ脫セサル蕃人ニアリテハ、必要品ナルカ如ク見受ケラレ、之ニ向ツテ手

ヲ著クル事、容易ナラサル問題ヲ惹キ起スヘシトノ虞アリタルモ、銃器處分ヲ措テ他ニ良策ナキヲ以テ、進ンテ銃器ト蕃人トノ關係ヲ研究セリ。(一)銃器ハ、蕃人ノ生存上必要具ナリヤ、否。(二)若シ必要具ナラストセハ如何ナル程度ニテ須要トスルヤ。(三)銃器ヲ押收シタル後ノ處分ハ如何ニスヘキヤ。等ノ諸件ヲ考究セシニ左ノ結果ヲ得タリ。(一)銃器ハ蕃人ノ生存上必要具ニアラス。何トナレハ、現今ノ蕃人ハ狩獵時代ヨリ、既ニ半ハ農業時代ニ移リ居ルモノニシテ、其ノ移リタル程度ニ、多少ノ深淺アルモ、生存ニ必要ナル食料ハ、土地ヨリ得ル耕作物、又ハ豚鶏等ノ家畜ニ依テ充タスヲ得ヘシ。彼等カ狩獵ニ對シテ非常ナル趣味ヲ有スルハ、之レ祖先傳來固有ノ風習ノ惰力ノ然ラシムル所ニ過キサルモノト認メタレハナリ。(二)銃器ハ彼等ノ快樂ヲ充タシ、又習慣ヨリ來ル儀式上ノ要件ヲ充タセハ足レリ。快樂ハ亦人生缺クヘカラサルモノナリ。而シテ狩獵ハ蕃人ノ最モ快樂トスル所ナルヲ以テ、其ノ快樂ヲ充タス程度迄ニハ、銃器ヲ所持セシムルノ必要アリ。又固有ノ儀式等ニ於テ、狩獵ノ犧牲ニアラサレハ行ハレサルコトアリ。旁々全々銃器ト絶縁セシムルコト能ハス。若シ強ヒテ之ヲ爲サントセハ却テ目的ヲ達シ得サルヘシ。故ニ全部ノ銃器ヲ提供セシメ、從順ニ提供シタル蕃社、又ハ蕃族ニ對シテハ(三)若干ノ銃器ニ彈藥ヲ添ヘテ貸與シ、監督ヲ嚴ニシ、所用終ラハ所在ノ駐在所ヲシテ之ヲ回收セシメ、授受ヲ明確ニナストキハ、恐ラクハ弊害ナキヲ得ヘシ。

右ノ結果ヲ得タルヲ以テ、銃器整理ヲ以テ、理蕃事業第一ノ段落トナサント斷定シ、從來ノ威壓、懷柔各般ノ施設、皆一齊ニ銃器整理ヲ目標トシテ進行センコトヲ企圖シ、茲ニ始メテ理蕃事業ノ效果ヲ、明確ニ收メ得ヘキ希望ヲ生シタルモノナリ。

明治四十三年ヨリ、實行ニ着手シタル理蕃事業ハ、此ノ方針ノ下ニ設計シタルモノナリ。而シテ初年度、即チ四十三年度ヨリ四十四年度ノ初期ニ渉ツテハ、之ヲ屬行シ、全島蕃族所有ノ銃器總數約一萬七千餘挺ノ內、約九千挺ヲ凡ソ一年度內ニ押收スルコトヲ得タルヲ以テ、此方針ノ必ラス好結果ヲ齎ラス可キヲ確信セリ。然ルニ四十四年度ノ中央ヨリ以後、之ヲ屬行セサリシハ、總督ノ承認ヲ得ルコト能ハス、總督別ニ計畫スルトコロアルヲ以テ、成ルヘク抵觸ヲ避ケンコトヲ勉メタレハナリ。銃器整理ヲ以テ理蕃ノ主眼トシタルハ、其ノ事柄ノ緊要ナルカ爲ノミニアラス。其ノ事ノ簡單明瞭ニシテ、行ハレ易キカ爲ナリ。蕃界ノ警察官吏、其ノ數巨多ナリト雖モ、皆一齊ニ此ノ目的ヲ懷カシメ、日常蕃人ニ對スル百般ノ場合ニ於テ、機會タニアラハ之カ實行ニ努力セシムルコトハ、格別ノ訓練ヲ要セサレハナリ。

又論者或ハ云ハン、銃器押收策可ナリ。然レトモ押收スルモ猶鎗弓蕃刀ノ手ニ殘留スルアリ。幾ント天性トモ云フヘキ迄ニ、馘首ノ念ノ盛ナル彼等ノ事ナレハ、彼等ノ武器ヲ以テ兇行ヲ働クノ虞ナキヲ保スルヤ否ヤト。答ヘテ曰ク、然リ、或ハ此ノ事アラン。然レトモ今日蕃人ノ制シ難キハ、銃器アルカ爲ナリ。彼等ノ手中既ニ銃器ナキ以上ハ、討伐モ容易ナルヘク、捕縛モ行ハレ得ヘク、思ヒノ儘ニ懲罰ヲ行フコトヲ得ヘシ。彼レ若シ飽クマテ我カ政治ノ主旨ヲ了解スルコト能ハスシテ、抵抗ヲ繼續センカ。是レ、彼レ自ラ滅亡ヲ招クモノナリ。已ムヲ得ス、文明ノ敵トシテ、討伐ヲ加ヘテ、其ノ族ヲ滅スモ未タ遲カラサルナリ。而シテ是

レ易々タル事業ナリ。憂フルニ足ラサルナリ。

第四　蕃界ノ地勢　（追加）

全島ノ面積二、三三二方里餘ニシテ、其内蕃地ハ一、二五六方里ヲ占ム。即チ全島ノ二分ノ一强ニ居レリ。抑モ臺灣ノ地形タルヤ其ノ南北ノ延長ニ沿ヒ、中央ニ大高山脈アリテ北端ヨリ南端ニ走リ、其ノ長サ約百里ニ及ヘリ。而シテ其ノ高山脈中海拔一萬尺乃至一萬三千尺ニ達スル高峯二十八箇アリ。此ノ峻嶮ナル山梁ヲ幹線トシテ其ノ兩側ヨリ無數ノ支脈ハ東西ニ分岐シテ全島面積ノ過半ヲ掩ヘリ。夫レ臺灣島ハ九州ニ比スレハ其ノ面積幾ト相等シキナリ。如此一小島地ニ於テ而モ其ノ二分ノ一强ニ過キサル地域内ニ於テ、富士山ト伯仲スル高峯二十八箇アリト云フニ至リテハ、其ノ地形ノ嶮惡ナルコト推シテ知ルヘキナリ。而シテ此ノ山地ハ、即チ生蕃ノ棲息スル處ナリ。加之臺灣ハ熱帶ヨリ亞熱帶ニ亘ルヲ以テ、草木密生森林繁茂シ、又高山ニ在ツテハ稍ヤ冷涼ナリト雖モ、針葉樹ニ富ミ、全島ノ山地概ネ四時鬱蒼タリ。

以上ノ如ク、突兀タル山地陰鬱ナル森林ハ、蕃人ノ爲ニハ屈强ナル隱レ家ニシテ、外部ヨリハ容易ニ進入シ難キ巢窟ナリ。一夫途ニ當レハ、萬夫進ムヲ得サルノ嶮岨ハ、蕃地ニ在ツテハ、敢テ珍トスルニ足ラサルナリ。然レトモ、既ニ歸順以來日久シキ蕃人ノ棲息スル地ニシテ、我政令ノ及ヒタル處ニ在ツテハ、概ネ通路ヲ開鑿シ、快濶ナル處亦尠カラス。

此ノ地形中ニ在ツテ、蕃人ノ棲息スルハ、概ネ溪流ニ沿ヒタル地域ニ屬シ、海拔約四千尺マテヲ普通トシ、其レ以上ハ稀ナリ。

第五　蕃人ノ狀況　（追加）

蕃人ノ總數十二萬餘、分ツテ左ノ七種族トナシ、更ニ六百五十四社ニ分カル。

蕃族人口社數表　（大正元年十二月調）

種族名	社數	人口
タイヤル族	二一七	二八、四七七
ブヌン族	一一四	一六、三一一
ツオウ族	二五	二、三四七
バイワン族	一七八	四〇、六一七
アミ族	一〇四	三二、六九三
ヤミ族	七	一、五一〇
サイセット族	九	七八一
計	六五四	一二二、七三六

各種族一定ノ地域ニ占據シ、互ニ言語ヲ異ニシ相反目ス、各社頭目アリテ各々其ノ社ヲ統率ス。各社獨立ノ狀態ヲ爲シ數社ヲ合セテ之ヲ統括スルノ大頭目アルコトナシ。但恒春蕃中ニ是アルモ、嚴正ナル統括權ヲ有セス。此ノ如ク各社獨立ノ狀態ニ在リト雖、同種族間ニ於テハ相爭鬪殺戮セサルヲ以テ常法トシ、之ニ反シテ其ノ種族ヲ異ニスルトキハ則チ互ニ相殺戮馘首スルヲ以テ常法トス。然レトモ時トシテハ、同族間ニ於テ互ニ不和ヲ生シテ、相殺戮スルコトアリ。又異族間ニ在ツテ相親和スル蕃社、稀ニハ是レナキニアラスト雖、是レ寧ロ例外ナリ。

馘首ハ蕃族一般ノ習俗ナリ、但種族ニ依リテ、其ノ程度ニ高低アリ。タイヤル族ハ馘首ノ念最モ强ク、ブヌン族之ニ次キ、ツオウ、バイワン二族亦之ニ次ク、アミ及ヒサイセットノ兩族ノ如キハ、現今ニ至ツテハ馘首スルコト殆ト是レナシト雖、馘首ヲ喜フノ觀念ハ、多少猶ホ存セリ。ヤミ族ニ至ツテハ全ク此ノ觀念ナキカ如シ。此ノ馘首觀念ノ强弱ハ、即チ性質上寬猛ノ別ル、處ニシテ、馘首ノ念强キ程獰猛ニ、其ノ念薄キ程溫柔ナリ。

蕃人ノ食物ハ、彼等自ラ耕耘シテ得ル處ノ米、粟、甘藷、芋等ノ類及飼養又ハ狩獵沙漁シテ得ル處ノ鳥獸魚屬ノ肉類ナリ。凡ソ蕃人ハ、農業ノ進步シタル種族程、馘首ノ念弱ク從ツテ性質亦溫柔ニシテ、其ノ反比例ニ狩獵ノ習慣盛ナル程、馘首ノ念强ク、從ツテ性質亦獰猛ナリ。

蕃人ノ武器ハ今日ニ於テハ一般ニ銃器刀劍ナリ、弓鎗ノ類尙ホ現存スト雖、武器トシテ格別ノ價値ヲ有セサルニ至レリ。銃器ハ蕃族全般ニ普及シ火繩銃ノ如キ劣等ノ者尠カラスト雖、モーゼル及レミントン銃ノ如キ精鋭ノモノ亦甚タ多シ。但理蕃事業遂行ノ結果、既ニ銃器ヲ押收シタル蕃族ニ在リテハ之ヲ有セサルナリ而シテ今日新タニ銃器彈藥ノ補充ヲ得ル途ハ、蕃界ニ於テハ殆ト途絕シタルヲ以テ此ノ上一層取締ト警戒トヲ嚴ニシ、同時ニ銃器押收ニ努ムルトキハ、蕃人ノ銃器彈藥ハ遂ニ絕滅シ其ノ兇猛ノ性自ラ柔化スルニ至ルヘキナリ。之ニ反シテ銃器ヲ絕滅セサル間ハ、蕃界ノ治安ハ保證セラレサルナリ。蕃人ノ人口ハ今後猶ホ增殖スルヤ否ヤハ、一ノ重要ナル問題ナレトモ今日マテ明確ナル統計ノ據ルヘキモノナキヲ以テ、何レトモ斷定シ難キナリ。思フニ種類ニ依リテ、增減ノ狀態ヲ異ニスルナルヘシ。蓋シ各種族固有ノ性質相異ナリ、又文明人ト接觸ノ程度ニ親疎ノ差アリ。先天的ニ强健ナル種ノ保存力ヲ有スルカ、又ハ文明人トノ接觸少キモノハ、人口增殖ノ傾ヲ有シ、之ニ反シテ種ノ保存力微弱ナルカ、又ハ文明人ト接觸繁盛ナルモノハ、繁殖ヲ妨ケラルヽモノヽ如クニ臆測セラル。而シテ今ノ現況ニ於テ、蕃人ニ對スル文明ノ勢力、漸次進入シツヽアル大勢上ヨリ觀察スルトキハ、蕃族ハ時ヲ經ルニ從ヒ、減衰スルモノト見做シテ大過ナカルヘキナリ。故ニ若シ蕃族ノ保存ヲ爲サント欲セハ、特ニ措置スル處ナカルヘカラサルナリ。

第六　理蕃計畫ノ成立

銃器ノ整理ヲ實行スルハ單ニ武力ヲ用ヒテ强制スヘキカ、曰ク然ラス。全島ノ蕃族其ノ數十二萬、分レテ六

百五十餘社トナリテ各獨立シ、其ノ盤居スル處ノ地域ハ一千二百餘方里ニ跨レリ、之ニ向テ悉ク武力ヲ用ヒントスレハ其ノ經費ト其ノ勞力トハ實ニ莫大ニシテ擧テ數フヘカラス。凡ソ武力事業ハ行政的施設ニ比スレハ其ノ要スル處ノ經費ノ多額ナルコト啻ニ數十倍ノミナラス、故ニ單ニ武力ヲ以テ蕃界ヲ處理セントスルハ不得策ナルノミナラス殆ント不可能ノ事ナリ、且ツヤ全島ノ蕃族ニ向テ同時ニ武力ヲ用ヒントスルカ如キハ到底行ハルヘキニアラス、此ヲ以テ例令ヒ武力ヲ用フルモ必スヤ漸次一方面ヨリ始メサルヘカラスシテ、其ノ一方面ニ武力ヲ用フルノ期間他ノ大部分ハ如何ニスヘキヤ、漫然放置スヘカラサルハ勿論ナレハ其ノ方面ニ於テハ絶エス廉價ノ平和施設ヲナシ、蕃人ヲシテ勉メテ我政府ノ眞意ノアル處ヲ了解セシメ、彼等ヲ窮乏ノ中ニ救濟セントスル聖代至仁ノ恩德ヲ感セシメ、徒ラニ彼等ヲ虐遇スルニアラサルコトヲ覺知セシムルコトヲ努メサル可カラス。此ノ如クニシテ化シテ順良ナル農民タラシメ、銃器ノ必要ナキニ至レハ武力ヲ用ヒス一令シテ即チ銃器ヲ提出スルニ至ルヘク假令ヒ之ヲ所持スルモ害用セサルニ至ルコトモ望ナキニアラス、若シ又感化ノ至極ニ達スルコトハ容易ナラストスルモ、感化ノ程度ノ進ミタル丈ハ他日萬已ムヲ得スシテ武力ヲ用フルニ至リテ其ノ勞逸ノ差同日ノ論ニアラサルヘシ。行政的撫育事業ノ忽カセニスヘカラサルヤ明ナリ。又況ンヤ大局ニ於ケル理蕃事業終局ノ目的ハ、蕃人ヲ化育シテ順良ナル帝國ノ臣民トナサントスルニアルヲ以テ、現今施シタル撫育事業ハ銃器ノ整理結了ト共ニ其ノ效ヲ失フモノニアラスシテ、他日大ニ平和的施設ヲナサントスルニ當テ其ノ基礎トナリ、其ノ幇助トナリ得ヘキモノナルニ於テヲヤ。果シテ然ラハ、武力事業ノ傍ラ行政施設ヲナスハ經費ノ點ヨリスルモ勞力ノ點ヨリスルモ將タ成功期間ノ點ヨリスルモ得アリテ損ナシト云フヘキナリ。加之吾人ハ今日マテニ於テ既ニ撫育事業ノ效果偉大ナルモノアリシコトヲ信スルモノナリ。

故ニ理蕃事業ヲ計畫スルニ就テハ、先ツ威壓ト懷柔トノ二途ニ依ラサルヘカラスシテ偏倚スヘカラサルコトヲ信ス、以下項ヲ分チテ之ヲ論セントス。而シテ此等ノ事項ハ皆悉ク予ノ創設ト云フニアラス、多クハ歴史的ノモノナリ、予ハ此等ヲシテ主意アラシメ、目的アラシメ、生命アラシメ、又確實ナル結果アラシメンコトヲ企圖シタルモノナリ、新舊材料ヲ以テ一家屋ヲ建設スルコトヲ努メタルモノナリ、舊材料ノ供給者ニ向ツテハ豈ニ深ク感謝セサルヲ得ンヤ。然リ其ノ建設既ニ成リテ年所ヲ經タルモ深山幽谷ノ地ニアルヲ以テ人ノ來テ之ヲ訪フ者甚タ稀ナリ、忽チ一陣ノ暴風來ツテ之ヲ破壞ス慨嘆ニ堪フヘケンヤ。

扨テ威壓ト懷柔トヲ以テ兩要件ト定メ、之ヲ實施スルニ當テ其ノ對手タル蕃人性質ニ就テ豫メ熟知シ置カサルヘカラサルモノアリ、南蕃北蕃ノ別之ナリ、若シ其ノ差異ヲ知ラサレハ威壓、懷柔共ニ其ノ效果ヲ全フスルコト能ハサルヘシ、其ノ差異如何ト云フニ北蕃ハ總テ獰猛慓悍ニシテ敢愾心盛ナリ南蕃ハ概シテ温柔怯懦ナリ、然レトモ其ノブヌン族ノ如キハ北蕃ニ繼キテ兇暴ナル蕃族ニシテ輕視シ難シ、是レ必スシモ根本的性質上ノ現象ノミニアラスシテ、其ノ居住スル地域カ南蕃中最モ深山ナルト土人通事ノ密ニ其ノ中ニ入込ミ居ルモノ多クシテ、我カ警察勢力ノ及ヒ難キノ事實ハ彼ヲシテ兇暴ナラシムルニ與リテ力アルモノナラン、

南北兩蕃ニ此ノ如キ差アルカ故ニ、威壓ヲ執行スルニ就テモ懷柔ヲ施スニ就テモ、其ノ方法異ナラサルヘカラス、然ラサレハ徒ラニ勞シテ功少ナカルヘシ。

甲、威壓策

抑〻理蕃ノ最終目的ハ綏化撫育ニ在ツテ存シ、夫ノ蕃族ヲ討夷シ、若クハ漸次衰亡セシムルト云フカ如キハ本來ノ希望ニアラサルノミナラス、一日モ早ク聖朝至仁ナル德政ノ主旨ヲ悟ラシメ、一刻モ速ニ文明ノ風化ニ浴セシメンコト唯一ノ希望トスルトコロナレトモ、奈何セン蕃族中頑冥不靈ノ兇蕃アリ我カ寛裕ナル政治ニ對シ反ツテ驕傲ノ心ヲ增長シテ益〻其ノ横暴ヲ恣ニシ殘虐極リナキモノアリ。是ニ於テカ施スニ武力ヲ用ヒ、其ノ暴虐ヲ制壓シ其ノ狠性ヲ馴致シ以テ竟ニ其ノ兇行ヲ敢テスルヲ得サルニ至ラシメントス。是レ威壓政策ノ存スル所以ニシテ、萬已ムヲ得サルニ出ツル所ナリ。是ヲ以テ彼等一タヒ翻然トシテ悔悟シ、翕然トシテ風化シ、復タ兇行ヲ敢テセサルニ至ラハ、則チ之ニ次クニ撫育政策ヲ以テセントス。

恩威併行トハ人口ニ膾炙スル古諺ナリ、我カ蕃界ニ於テハ則チ然ラス先威後恩ヲ以テ治蕃ノ要訣トス。抑〻恩ナルモノハ强者ノ弱者ニ對シ優者ノ劣者ニ對スル厚意ナリ。之ニ反スレハ則チ善ハ貢献トナリ、惡ハ賄賂トナルヘシ。夫レ蕃人ハ祖先以來山中ニ棲息シ、自境ノ外ニ天地アルヲ知ラス、徒ラニ傲然トシテ自ラ恃ミ、他ヲ輕侮シテ敢テ下ラス。此ノ時ニ於テ輕々シク恩惠ヲ施ストキハ則チ以テ贈賄トナシ、容易ニ我ノ厚意ヲ

領得セサルノミナラス、愈〻其ノ倨傲ノ心ヲ增進セシムルニ至ル。是ノ故ニ先ツ其ノ妄想ヲ打破シ、文野ノ別、强弱ノ殊アルコトヲ悟ラシメ、自己ノ運命ハ委シテ治者ノ掌中ニ存スルコトヲ領得セシメ、然シテ後施スニ恩ヲ以テシ、與フルニ惠ヲ以テセハ、彼レ始メテ之ヲ德トシ、之ヲ厚トシ、我政令ノ下ニ馴服スルニ至ルヘシ、是レ蕃人ノ常態ナリ。故ニ恩ヲ後ニシテ威ヲ先ニセントスルモノナリ。

北蕃ハ最モ兇惡ナリ未タ人道ノ何物タルヲ知ラス、馘首ヲ以テ無上ノ名譽トシ、又快樂トス。嫁娶モ馘首ニヨリテ成功シ、曲直ノ紛議モ馘首ニヨリテ勝者トナリ、憂忿モ亦之ニ依テ醫ス。人ヲ殺スコト恰モ吾人ノ猪鹿ヲ獵ルカ如シ。斯ノ如ク頑冥ナルヲ以テ、北蕃ニ對シテハ最モ威壓ヲ主トセサレハ效ヲ收メ難シ。南蕃ハ之ニ反シ、稍〻温柔ナルヲ以テ、之ニ對シテハ主トシテ撫育政策ヲ用ヒ、偶〻暴虐ヲ敢テスルモノアルトキハ、則チ威壓ヲ加ヘテ之ヲ制セサルヘカラス。南北兩蕃寛猛ノ差アルカ爲ニ、同シク威壓ヲ施スニ於テモ、南北大ニ其ノ方法ヲ異ニセサル可ラス、懷柔ニ於テ亦然リ。而シテ之ヲ詳述スルコトハ、此單編ノ能クスル處ニアラサルヲ以テ簡約ニ從フ。

威壓ノ方法四アリ討伐、隘勇線前進、物品供給ノ制限及ヒ一般的警察取締是レナリ。

一 討伐

蕃人ニ對スル撫育手段其ノ效ヲ奏セスシテ彼等飽クマテ兇行ヲ敢テスルトキハ、武力ヲ加ヘテ懲戒スルノ

外ナキナリ之ヲ討伐ト云フ、此ノ討伐ハ警察隊ヲ以テ行フコトアリ又ハ軍隊ト連合シテ行フコトアリ小銃隊ノミヲ以テスルコトアリ大砲隊ヲ加フルコトアリ。其ノ發スルニ先チ、地形ト蕃情トヲ偵察シ、準備一度成ルヤ驀進シテ目的ノ蕃社ニ突入シ、其ノ家屋倉庫ニ火ヲ放チ耕作物ヲ蹈ミ荒ラシ、又或ハ大砲ヲ以テ砲擊シテ大ニ威ヲ振フ。然ルニ蕃人ハ我隊ノ近クヲ知ルコト甚タ機敏ニシテ、概ネ逃竄スルヲ以テ、能ク捕殺スルコト甚タ稀ナリ。

南蕃ハ此ノ討伐ニ逢フトキハ、概ネ遠近ノ蕃族、皆震駭慴伏シテ、我威力ノ恐ルヘキヲ感覺シ、或ハ兇行蕃人ヲ提供シテ謝罪スルニ至リ、銃器ノ押收モ亦容易ナルヲ以テ、十分ナル效果ヲ收メテ凱旋スルコト難カラス。北蕃ハ之ニ異ナリ、家屋倉庫ヲ燒キ、耕作物ヲ踏ミ荒ラサルヽモ容易ニ屈服セス、動モスレハ却テ逆襲シテ我隊ヲ損スルコト少ナカラス。特ニ蕃人トノ戰鬪ニ於テ困難ナルハ森林地ナリ、彼等ハ巧ニ密林ノ間ヲ奔馳シテ狙擊ヲ努ム其ノ技甚タ巧妙ナリ。我討伐隊員ノ蕃人ノ爲ニ斃サルヽモノ多クハ此レカ爲ナリ、一時的ノ打擊ヲ以テ容易ニ銃器ノ全部ヲ提供スルニ至ラス、故ニ北蕃ニ對シテハ隘勇線ヲ設ケテ以テ持久的威壓ヲ加フルヲ通則トセリ。

討伐ノ效果ヲ完キニ收メントスルニハ南蕃、北蕃、各二三ノ要訣アレトモ冗長ニ渉ルヲ以テ略ス。

二　隘勇線設置

隘勇線トハ蕃人ニ對シ防禦攻擊ヲ兼ネタル步哨線ニシテ同時ニ戰線ナリ、蕃界要扼ノ地ニ於テ山嶺溪谷ヲ亘リテ一條ノ道路ヲ開鑿シ、線ノ內外幅數十間ノ地帶ハ草木ヲ刈除シテ射界ヲ開キ、蕃人ノ來襲ヲ監視スルニ便ナラシメ、尙ホ道路上要衝ノ地點ニハ哨舍ヲ設ケ隘勇ヲ配置シ、其ノ間處々ニ監督員ヲ駐在セシメテ監視セシム、又必要ナル地點ニハ砲臺又ハ砲陣地ヲ置キ蕃社ノ威嚇ニ用ヒ、又最モ慓悍ナル蕃族ニ對シテハ隘勇線ニ沿ウテ鐵條網ヲ設ケ、高壓電流ヲ通シ又地雷ヲ埋設スル所アリ。

隘勇線ニ於テハ蕃人ト對峙シ、彼等如何ニ攻擊シ來ルモ一步モ退カスシテ之ヲ防禦シ、彼ヨリ來ラサレハ我ヨリ砲擊ヲ加ヘテ之ヲ攻メ、日夜戰爭ヲ繼續シテ止マサルヲ以テ、彼レ遂ニ其ノ强壓ニ堪ヘスシテ所持ノ銃器ヲ提出シテ投誠歸順ヲ哀願スルニ至ル。甲蕃族此ノ如クニシテ歸順スルトキハ即チ更ニ隘勇線ヲ前進シテ新隘勇線ヲ作リ、乙蕃族ニ向テ前同樣ノ壓迫ヲ加ヘ其ノ歸順ヲ促シ、遞次漸進シテ銃器ヲ押收シ終ニ最後ノ解決ヲ求メントスルモノナリ。

此ノ方法ハ討伐ニ比スレハ日子ヲ費スコト多シト雖モ、地形險惡、蕃族慓悍ニシテ一氣ニ侵伐シテ勝利ヲ完フシ、其ノ效果ヲ收ムルコトヲナシ難キ塲合ニ於テハ此ノ法ニ依ルノ外ナキナリ。而シテ今日ニ至ルマテ北蕃ニ對スル攻擊ハ幾ント皆此ノ隘勇線式ニ依リ效果ヲ收メタルモノナリ、而シテ其ノ效果ハ確實ナルモノナリ。然リト雖モ北蕃必スシモ隘勇線ニ限定スヘキモノニアラス、地形ノ偵察モ略ホ成就シ、蕃族モ甚タシク兇暴ナラサル塲合ニ於テハ討伐ノ效ヲ奏スルコトナキニアラサルヘシ、但其ノ終期ニ於テ銃器ノ整理ヲ完

結セサレハ討伐ノ效果ヲ收メ難キヲ以テ、豫メ愼重ナル考慮ヲ費サヽレハ數回同樣ノ討伐ヲ繰返ヘサヽル可ラサルノ不都合ヲ見ルコトナキヲ保セス。

此ノ隘勇線ノ方法ハ確實ニシテ失敗ノ憂ナク、討伐ノ如ク冒險的ナラサルカ故ニ其ノ實行宜シキヲ得ハ比較的勞少クシテ其ノ效亦速ナルモノナリ、今日ニ至ルマテ北蕃中最モ强硬ナル地域ノ大部分ヲ碎キタルハ皆此ノ方法ニ依リタルモノニシテ、中央山脈以西ニ於テ今尙ホ依然トシテ其ノ根據地ヲ有スルハ「キナジー」蕃及「サラマオ」「シカヤブ」アルノミナリ、而シテ此等ノ蕃族モ亦一回又ハ二三回ヅヽ、我銃火ノ下ニ立チ既ニ創痍ヲ受ケタルモノナリ。

現隘勇線ノ前方、中央山脈ニ向テ尙ホ廣漠タル地域ノ存スルヲ見テ直ニ理蕃ノ前途望洋ノ嘆ヲナシ、此ノ方法ノ餘リニ遲緩ナルヲ嘆スルモノアラハ、是レ形勢ヲ知ラサルノ杞憂ノミ、何トナレハ蕃人ハ今日彼等カ壓迫ヲ受ケヅヽアル隘勇線附近ヲ去テ、遠ク中央山脈附近ニ逃竄セントスルモ、土地氣候及其ノ他ノ事情ハ之ヲ許サス、現今ノ地域ニ於テ最早彼等ノ運命ヲ決セサル可ラサルノ境遇ニ迫リツヽアルヲ以テナリ。

抑〻蕃界ハ高山ニアラサレハ則チ深谷ニシテ平地ハ極メテ少ナシ、加之幾千年斤斧ノ入ラサル所謂處女林ハ鬱蒼トシテ其ノ大部分ヲ掩ヘリ、彼ハ其ノ高山ヲ以テ壘壁トナシ、其ノ深谷ヲ以テ塹壕トナシ、其ノ森林ヲ以テ副防禦トナスナリ。而シテ猪鹿ノ足跡ヲ印スル細徑纔ニ通スル外道路ト稱スルモノハ絕無ト云フモ幾ント不可ナシ。而シテ彼ハ熟地ナルニ因リ此ノ嶮岨ヲ視ルコト庭園ニ異ナラサルモ、我ハ生地ナルニヨリ山脈ノ本支溪流ノ源委ヲ詳ニセス、是レ我カ作業動作ニ困難ニシテ彼カ襲來狙擊ニ便宜ナル所以ナリ。地ノ利ニ於テ彼ハ常ニ優者ニシテ我ハ常ニ劣者ナリ、故ニ力ヲ以テ爭フトキハ失費ト犧牲我ニ多クシテ彼ニ少ナシ然レトモ我ノ大ニ彼ニ優ル處ノモノアリ、文明ノ智識是ナリ、故ニ成ルヘク力ヲ以テ爭フコトヲ避ケ、智力ヲ以テ當ルコトヲ努メサルヘカラス。是レ亦理蕃策ノ要訣ナリト信ス。

隘勇線前進ノ方法ニ就テハ要訣アルモ繁ヲ避ケ之ヲ略ス。

三　物品供給制限

蕃人ノ日常需用品中、自ラ生產スル能ハスシテ平地ヨリ其ノ供給ヲ仰カサルヘカラサルモノアリ。其ノ供給ヲ制限シテ彼等ニ苦痛ヲ與フルハ消極的壓迫法ニシテ、最モ勞力ト經費トヲ要セサル簡便法ナリ。其ノ制限スヘキ品目ハ銃器、彈藥、鐵器類、食鹽、燐寸、各種ノ布類等是ナリ。

銃器彈藥ノ供給ヲ絕對ニ禁止スルコトヲ得ハ、蕃人ハ自ラ無勢力トナリ閉息スルニ至ルヘク討伐等ノ勞ヲ要セサル道理ナリ。故ニ之カ禁止ハ最モ嚴重ナラサルヘカラス、而シテ之カ供給地ハ平地若クハ海岸ニアリテ現今ハ其ノ監督最モ嚴重ニ行ハレツヽアルヲ以テ幾ント絕對ニ防止スルコトヲ得タリ。但彈藥ハ今尙ホ多少ノ遺憾ナキニアラス、其ノ故ハ既製ノ彈藥トシテ密輸入セラルヽコトハ今日ニ於テ幾ント痕跡ノ認ムヘキモノナキニ至リタリト雖モ、硝石ハ往々密輸入セラレ蕃地ニ於テ木炭末ト硫黃トヲ混シテ粗製ノ火藥ヲ製造

スルモノ今尚ホ跡ヲ斷タス、硫黄ノ蕃地ニ於ケル産否ハ正確ナラサルモ蕃地各所ニ温泉アリ、又一面未タ硫黄密輸入ノ報ニ接セサルヨリスレハ硫黄ノ産地アルモノト推測スルモ不可ナカルヘシ。然レトモ亦硫黄ノ密輸入ナシトモ限ラサレハ硝石ト共ニ硫黄ノ密輸入ヲ監督スルコトハ最モ緊要トスル處ナリ、今日ニ至リ南蕃ノ漸次靜謐ニ赴キタルハ數回討伐ノ效果モ與レリト雖モ、主タル原因ハ銃器彈藥供給禁制ノ效ニ歸スルト云フモ誣言ニアラサルヘシ。北蕃ノ今尚ホ南蕃ニ比シテ抵抗力强キモノハ其ノ固有ノ性質ニ因ルト雖モ亦彼等カ蕃界警戒員ヲ襲殺シテ得ル處ノ銃器彈藥ニ依リ其ノ缺乏ヲ幾分ツヽ補充シツヽアルニ因ルモノナリ。然レトモ一面ニ於テ彼等カ日常最モ嗜好スル狩獵ノ爲メニ費ス處ノ彈藥ハ甚タ多クシテ、得ル處ハ失フ處ヲ償フニ足ラサルヘキヲ以テ、漸次減少シテ遂ニ勢力ノ衰退ヲ來スコトハ必然ノ勢ナリ、故ニ彈藥類ノ供給制限ハ理蕃策上最モ忽ニス可ラサルナリ。

銃器彈藥ニ尋テ禁壓ノ最モ效アルハ食鹽ナリ、食鹽ハ通常人生必須ノ需用品ナリ、故ニ嘗テ思ヘラク之カ禁壓法ヲ講セハ蕃人ハ拱手シテ壓服シ得ヘキニアラスヤ、時期ハ長カルヘキモ最モ簡單ナル方法ニアラスヤト、依テ之カ調査ヲナシタルニ天然ノ蕃人ハ食鹽ヲ要スルコト驚クヘキ程少ナク、加之若シ食鹽缺乏スルトキハ特種ノ植物ヲ以テ代用スト云ヒ、又一般學說ヲ聞クニ世界ノ或ル部分ニハ食鹽ヲ用ヒスシテ生活シツヽアル人種アリト云フヲ以テ、食鹽禁壓法ノ專ラ依賴スヘカラサルヲ認メタリ、然レトモ食鹽ヲ禁スルトキハ實際ニ於テ苦痛ヲ訴フル蕃人多ク、特ニ從來多量ニ慣用シタルモノ程苦痛ノ度モ亦高キヲ以テ、此レ亦一ノ重要ナル壓迫法トシテ利用スルニ足ルコトヲ認メタリ。

食鹽ニ尋クモノハ鐵器類ナリ農具及蕃刀ハ彼等ノ必要品ニシテ之レ無ケレハ耕作スルコト能ハス、家屋ヲ建築スルコト能ハス、器具ヲ製作スルコト能ハス、故ニ之カ禁制ハ彼等ノ大ニ苦痛トスル處ナリ。但シ此等ハ消耗品ニアラサルヲ以テ其ノ效果ノ見ハルヽハ食鹽ノ如ク速カナラサルナリ。

布類ハ彼等ノ耕作スル「ラミー」ヲ以テ織リタル粗末ナル麻布ノミニテ、其ノ他毛布綿布毛絲等ノ如キハ總テ供給ヲ我ニ仰ケリ、從テ之カ禁制ハ彼等ノ苦痛トナルモノナレトモ食鹽鐵器ノ如ク甚タシカラサルナリ。

凡ソ需用品ノ禁制法ハ勞費少クシテ其ノ效多キヲ以テ最モ重要トスルモノナリ、而シテ茲ニ大ナル障害アリ何ソヤ、土人通事是ナリ。土人通事ハ清政府時代ヨリ古來蕃界ニ出入シテ蕃語ヲ解シ、蕃情ニ通シ、物品交換ヲ業トシ需用品ヲ蕃人ニ供給スルノ事業ヲ專有シ、依テ以テ蕃人ヲ籠絡シ、蕃人ニ向テ大ナル勢力ヲ有スル者ナリ、動モスレハ蕃界治亂ノ權ヲ握ル者ナリ、禁制品ノ密輸入ハ多ク是等ノ手ニ依テ行ハル、故ニ禁制ノ屬行ハ直ニ通事ニ對スル壓迫ナリ、通事ハ其ノ利益ヲ奪ハル、カ故ニ動モスレハ蕃人ヲ煽動シテ官ニ抗セントス、是レ愼重ノ注意ヲ要スル處ニシテ、情況ヲ察シテ適宜ニ禁制ヲ行ヒ、一面ハ成ルヘク至急ニ官吏ヲシテ蕃語ヲ習熟シ蕃情ニ通セシメ、蕃人ヲシテ我ニ信賴セシムルコトヲ努メ、漸次彼等ノ勢力範圍ニ進入シテ我勢力範圍ヲ擴大シ、不正ナル通事ヲ驅逐スルヲ以テ要訣トス。今日ニ於テ北蕃ハ全部之ヲ驅逐シ、南蕃ニ於テモ官吏ノ蕃情ニ通シタルモノ大ニ增加シ、其ノ勢力範圍ハ南蕃ノ大半ニ及ヒ、通事ノ勢力ハ著シク減

殺シ從テ禁制ノ監督モ亦頗ル效果ヲ顯ハスニ至レリ。

南北兩蕃共ニ禁制ハ未歸順蕃ニ對スル制裁ニシテ、歸順蕃ニ對シテハ成ルヘク供給ヲ豐ニシテ恩惠ヲ施シ、以テ未歸順蕃ヲ誘導招致スルノ手段トナサヽルヘカラス。而シテ歸順蕃ニ對スル供給品ハ、動モスレハ轉移シテ未歸順蕃ニ移入セラルヽノ恐アルヲ以テ注意ヲ怠ルヘカラス

四　一般警察取締

蕃地ニ於ケル警察取締ハ、蕃人ノ不正行爲ヲ未犯ニ豫防シ、及ヒ既犯ニ懲罰スルモノニシテ、豫防トシテハ先ツ民蕃ノ接觸即チ平地人ト蕃人トノ交際往來ヲ制限スルヲ第一トス。之カ爲ニハ蕃地取締規則ノ制定アリテ、平地人カ蕃地ニ出入スルニハ必ス蕃界警察ノ許可ヲ受ケシム、又蕃人ノ平地ニ出ツルモ亦概シテ警察ノ承認ヲ經セシム、是レ一面ニ於テハ彼等ヲ保護スルノ主旨ナキニアラスト雖モ、亦物品密交換ノ非行ヲ防キ且又狡猾ナル土人ノ爲ニ惡智ヲ生セサラシメンカ爲ナリ。此ノ取締ハ蕃地內部ニ於ケル警察官吏ノ勢力尙ホ未タ普及セサル時期ニ限リ必要ニシテ、既ニ其ノ勢力ノ普及シタル地方ニ於テハ漸次撤去スルモ差支ナキナリ。

又蕃人ニシテ惡事ヲナシタルモノハ之ニ懲戒ヲ加フ、蕃人相互間ニ於テハ惡事ヲナシタルモノニハ普通償罪トシテ物品ヲ提供セシムルヲ常トス、警察ニ於テハ成ルヘク銃器ヲ提供セシムルコトヽシ聊カニテモ彼等

ノ勢力ノ減殺スルコトヲ努ム。

其ノ他ハ一々列擧シ難シト雖モ臨機應變一般ニ取締ヲ嚴ニシ、目的遂行ノ爲ニ障害ヲ除去シ便宜ヲ得ントスルモノナリ。

又蕃界ニ於ケル地形、人口、戶數、其ノ他一般ノ蕃情ハ絕エス蕃界駐屯ノ警察官ニ依テ偵察調査ヲ惰ラサルカ故ニ、他日彼等カ甚タシキ兇行ヲ敢テスルカ如キ場合ニ於テハ討伐ノ準備トナスニ足ルモノナリ。

乙、懷柔策

威壓ハ懷柔ノ前提ナリ、懷柔ハ最終ノ目的ナリ、先ツ武力ヲ以テ征服シ、彼等カ腕力ヲ以テ到底我ニ抵抗シ能ハサルヲ自覺シタルトキハ即チ直ニ懷柔手段ニ移リ授產、敎育、衛生、宗敎等凡ソ彼等ヲ導キテ善良ノ臣民タラシムヘキ平和事業ヲ施シ、懷柔シ得テ以テ理蕃ノ效果始メテ完カルヘシ。然リ而シテ今ヤ威壓ヲ要スル蕃族尙ホ少カラサルカ故ニ、現在及近キ將來ニ於ケル理蕃事業ハ經費ノ關係上專ラ重キヲ威壓ニ置カサルヲ得スト雖モ、威壓ヲ敢行スルニ隨ヒ歸順蕃ノ數モ亦漸次增加スルヲ以テ、之ニ對シテハ逐次撫育ヲ施スヲ怠ルヘカラス。然ラサレハ一旦歸順シタルモノト雖モ自然方向ニ迷ヒ、再ヒ反旗ヲ翻シ、爲ニ全局ノ終結ヲ遲緩セシムルニ至ル、故ニ撫蕃ノ事モ亦經營ノ許ス範圍ニ於テ施設ヲ勉メサルヘカラス、若シソレ撫蕃ノ事ハ、討蕃事業全部完了ノ後ニ讓リテ可ナリト謂ハヽ、不知討蕃終了ノ時期ハ果シテ何レノ日ニ到來スヘキ

カヲ、若シ今日マテノ理蕃ノ成績ヲ以テ専ラ威壓ノ功ニ依ルカ如ク思惟スルモノアラハ大ナル誤ナリ。其ノ實ハ裏面ニ於テ孜々トシテ經營シツヽアル撫蕃事業ノアルアリテ、歸順シタル蕃人ニ對シテハ直ニ懷柔ヲ施シ背反ノ憂ナカラシムルト同時ニ。之ヲ未歸順蕃ニ表示シテ以テ其ノ抵抗ノ不利ナルコトヲ諒解セシメンコトヲ勉メタレハナリ、此ノ如クニシテ懷柔策ハ一面ニハ討蕃ノ前ヲ準備シ、一面ニハ討蕃ノ後ヲ收メツヽアルコトヲ看過スヘカラス。故ニ懷柔ハ歸順蕃ニ對シテハ威壓ノ善後策トシテ現ハル、モノナレトモ、未歸順蕃ニ對シテハ却テ其ノ前提トナリ、討蕃ノ勞費ヲ減少スルニ大ニ貢獻シツヽアルコトヲ忘ルヘカラス。是ヲ以テ懷柔ハ無用ノ業ニアラサルノミナラス、最モ重要ニシテ豫メ懷柔ニ勉メタル丈、夫レ丈ケ討蕃ヲ容易ナラシムルモノニシテ、其ノ勞力ト經費トニ於テ節約シ得ル處ハ懷柔ノ爲ニ費ス處ノ幾層倍ナルカヲ知ラス。

懷柔策ヲ講スルモ亦南蕃北蕃ニ依テ差アリ、南蕃ハ撫育策ノ大ニ用ヒラルヘキ種族ナリ、此ノ方面ノ蕃人ハ既ニ過半馴服シタルモノナルカ故ニ主トシ懷柔手段ヲ以テ寛仁ノ行政ヲ施キ其ノ服心ヲ得ルコトニ努ムヘシ然レトモ南蕃必スシモ皆悉ク順良ナラス、亦往々兇暴ナルモノアリテ、今尚ホ馘首ヲ事トス、此等ニ對シテハ北蕃ト同シク威壓ヲ先ニシテ懷柔ヲ後ニスルハ論ヲ待タサルナリ。

北蕃ニ至リテハ概シテ兇暴獰惡ナリト雖モ、既ニ歸順シタルモノ亦少ナシトセス、之ニ對シテハ南蕃ト同シク平和ノ政策ヲ以テ懷柔ヲ努メ、文明ノ恩澤ニ浴セシメテ間接ニ其ノ感化ヲ未歸順蕃ニ波及セシメ、以テ抵抗心ノ減殺ヲ企圖セサルヘカラス。

或人曰ク、蕃人ハ文明ノ敵ナリ、之レヲ誘掖啓導スルモ何ノ益カ之レ有ラン却テ文明ノ累トナランノミ、之ヲ殲滅スルノ勝レルニ如カスト、此ノ論必スシモ不可ナラス、奈何セン幾ント實行不可能ノ事ニ屬スルヲ請フ見ヨ全島ノ蕃族其ノ數十二萬人、其ノ所有銃器ノ數今尚ホ約二萬挺弱ヲ算ス、而シテ其ノ盤居地域ハ全島ノ面積二分ノ一强ニ渉リ、多クハ高山深谷ニシテ普通人ノ輒ク到リ難キ所多シ、此ノ天嶮ノ地利ニ據リテ巨多ノ銃器ヲ有シ、銃獵ヲ以テ常業トシ、射擊ニ練熟シタル此ノ慓悍獰惡ノ蕃族ヲ單ニ武力ヲ以テ剿滅セントスル果シテ如何ナル方法手段アリトスルカ、詐欺手段ニ依ラサル限リハ蕃人百名ヲ殺戮スルハ蓋シ容易ノ事ニアラサルヘシ。況ンヤ十二萬ノ多數ニ於テヲヤ、若シ一回又ハ二回ノ詐術效ヲ奏シテ幸ニ若干ヲ殺戮シ得タリトスルモ、遂ニ彼等モ亦自衛ノ必要上自然各方面相結合スルニ至ラン、或ハ遂ニ各種族ノ全部相團結シテ我ニ當ラントスルヤモ測リ知ルヘカラス、果シテ然ラハ所謂窮鼠猫ヲ嚙ムモノニシテ、假令ヒ幾多ノ部隊ヲ以テ之レニ臨ミ如何ナル文明ノ利器ヲ以テ之ニ對スルモ遂ニ奏效ノ容易ナラスシテ永ク禍害ヲ世ニ貽サンナリ。

故ニ予輩ハ、常ニ蕃人ニ對シテ之レヲ教化撫育シテ、漸次文明ノ域ニ接近セシメ導キテ幸福ナル泰平ノ民タラシムルコトヲ以テ終局ノ目的トス。是レ蓋シ未開ノ人類ニ對スル開明人ノ天職ナルヘシ。語ニ曰ク仁者ハ敵ナシト。是レ空論ニアラスシテ政治的實際ナリ、實利主義ナリ、暴虐ナル殺戮ヲ專トシ、人道ヲ無視シタル主義政策ハ必ス好結果ヲ得ルコト能ハス。正々堂々假令ヒ何人カ來リテ門ヲ敲クモ、直ニ邀ヘテ提示シ

得ヘキ至公至平ノ主義ノ下ニ行動スルハ從事者ノ愉快ハ云フマテモナク、其ノ結果モ亦必ス良好ナルコトヲ信シテ疑ハス。

從來ノ懷柔政策ハ、規模狹小ニシテ經費少ク人員亦多カラス、故ニ十分ノ活動ヲ爲ス能ハサルハ五年計畫ノ然ラシムル所復タ已ムヲ得サルナリ、唯夫レ主義ハ施設ノ大小ニヨリテ曲クヘカラス、威壓ノ時代過キ去リテ懷柔ノ時期ニ至ルニ及ヒ、猝ニ懷柔方法ヲ講スルハ既ニ晩キノミナラス、刻下ニ於ケル威壓モ亦懷柔ヲ伴フコトナケレハ其ノ效ヲ奏スルコト難キヲ以テ、宜シク今日ヨリ經費ノ許ス限リニ於テ、一面撫蕃ニ努力セサル可カラスシテ決シテ等閑ニ附スヘカラサルナリ。

懷柔手段ハ種々アリト雖モ、今其ノ事項ヲ分類スレハ概シテ授産、教育、布教、物品交換、醫療、觀光、一般警察的保護ノ七項トナスヲ得ヘシ

一　授　産

蕃人ヲシテ其ノ狠性ヲ馴致シテ順良ノ民タラシメント欲セハ、其ノ衣食ヲ豐ニスルコトヲ圖ルハ最モ急務ナリ、若シ之ヲ勉メスシテ徒ニ之ヲ强壓シテ其ノ兇暴ヲ抑ヘントスルハ抑〻無理ナル注文ナリ。夫レ人生快樂無カルヘカラス、之レ無ケレハ其ノ生ヲ安ンスルコト能ハス、蕃人ハ狩獵ヲ以テ快樂トス、何時マテモ狩獵ノ快樂ヲ貪ルカ故ニ馘首ノ念何時マテモ去ラサルナリ、馘首ノ念ヲ去ラント欲セハ狩獵ノ念ヲ去ラシメサルヘカラス、狩獵ヲ止メント欲セハ先ツ現今ヨリモ向上シタル衣食住ノ快樂ヲ知ラシメサルヘカラス、衣食住ノ快樂ヲ知ラシメント欲セハ產業ヲ授ケサルヘカラス。而シテ現今ニ於ケル蕃人ノ生活狀態ヲ觀察スルニ、臺灣蕃人ハ概シテ狩獵時代ヨリ農業時代ニ遷ラントスル過渡期ニ在ルモノト云フヲ得ヘシ。而シテ其ノ遷リタル程度ノ深淺ニ比例シテ文化ノ程度ヲ異ニシ、最モ深ク狩獵ヲ好ム蕃族ハ最モ兇惡ニシテ、最モ農業ニ勉ムル蕃族ハ最モ温和ナリ。即チ「タイヤル」族ハ最モ狩獵ヲ好ム種族ニシテ隨テ文化ノ程度モ最モ低ク馘首ノ念最モ盛ナリ、又「アミ」族ノ如キハ最モ農業ニ勤勉ニシテ最モ從順ナリ、且ツ既ニ銃器モ悉ク押收シタルヲ以テ馘首ノ暴行ヲ敢テスルコトナク、純然タル農民ノ如キ外觀ヲ呈シ居レリ。然レトモ狩獵ヲ快樂トスルノ念ハ容易ニ脫却セス、今尙ホ銃器ヲ貸與シテ出獵セシムルトキハ最モ愉快ヲ感スト云フ、注目ニ値スヘキコトナリ。

蕃人ノ最モ廣ク一般ニ耕作スル食料品ハ甘藷ニシテ、其ノ他米、粟、稗、菽豆、芋等ハ各所適宜ニ之レヲ作ル、米ハ陸稻ヲ普通トシ東海岸ノ「アミ」族南部ノ「バイワン」族ノ如キハ水稻ヲ作ル、其ノ他ノ農作物ハ蒲草、苧麻、芭蕉、柑橘、檳榔等アルモ主要ノ生產ニ屬セス、畑地ハ一般ニ切替畑ニシテ廣漠タル地域ヲ有スルヲ以テ二三年同一ノ地ニ耕作スレハ則チ新地ニ移リ、七八年乃至十年目ニ舊地ニ復ヘルノ例ニシテ、榛樹、想思樹等ヲ植テ地力ノ回復ヲ圖リ特ニ肥料ヲ施スコトハ未タ見サルトコロナリ。彼等ハ又豚ヲ養ヒ牛ヲ牧シ禽ヲ飼フコトヲ知ル、然レトモ一般ニ貯蓄心ニ乏シク、今年ノ收穫ハ僅ニ來年ノ收穫期ニ至ルマテヲ

支フルニ足リ、二三年ノ長計ヲナスモノナキニアラスト雖モ甚タ罕ナリ、豚牛ノ如キモ官ヨリ種畜ヲ恵與シタル後、監督ヲ嚴ニセサレハ忽チニ屠殺シテ之ヲ食フヲ常トス、故ニ蕃人ニ農業ヲ奬勵スルニハ成ルヘク收穫ヲ多クシ品質ヲ優良ニシ貯蓄ヲ豊カニセンコトヲ勉ムヘシ、米ニ在ツテハ成ルヘク水田耕作法ヲ奬勵スヘク、又一般穀類ノ種子ヲ改良シ、畜禽類ノ良種ヲ與ヘテ繁殖ヲ圖ラシムル等ヲ急務トスヘシ。

蕃人ハ又農業ノ外幼稚ナル工業品ヲ作ルノ能力アリ、苧麻ヲ績ヒテ布ヲ織リ、又ハ網ヲ編ミ又藤竹ヲ以テ籠ヲ作ル等是レナリ、其ノ技巧ハ侮ルヘカラサルモノアリ、好ク之レヲ練習セシムレハ發展ノ望ミ十分アリト信ス。

要スルニ農工共ニ之ヲ補導誘掖シテ其ノ改良進歩ヲ圖リ、其ノ生計ノ程度ヲ高メ、衣食住ノ幸福ニ浴セシムルコトハ至難ノ事ニアラスシテ、而モ最モ重要ノ事業ナリ。

茲ニ蕃人ノ授産ヲ攻究スルト共ニ攻究ヲ要スル問題アリ、蕃人將來ノ居住區域是レナリ、蕃人現今ノ居住區域ハ「アミ族」「ヤミ族」ヲ除クノ外ハ概ネ山深キ幽谷地ニアリ、最初平地ヨリ漸次壓迫ヲ受ケタルモノナルヲ以テ彼等ハ溪流ニ沿ウテ上リ、現今ハ多クハ溪流ノ上方ニ退居シ、山谷ノ間ニ點々散居スルモノ多シ、此ノ狀態ノ下ニ在ツテハ產業ノ奬勵ノ爲ニモ又警察上ノ保護監督ノ爲ニモ大ニ其ノ便宜ヲ缺ク、故ニ成ルヘク彼等ノ欲スル程度ニ於テ溪ニ沿ウテ下ラシメ、平地ニ接シタル附近ニ於テ新住地ヲトセシムルコトトセハ彼我共ニ便ニシテ且ツ同時ニ從來彼等ノ占有スル廣漠タル地域ニ代フルニ狹少ノ地域ヲ以テシ、土地ノ整理ヲ行フコトヲ得ン乎、利害ノ關スル所少カラス、頗ル考慮ヲ要スヘキ問題ナリ。

二　教育

蕃人ニハ固有ノ教育設備ナキハ勿論ナレトモ、又全ク教育ナキニモアラス、祖先ノ遺訓又ハ傳說ナルモノアリテ、父ハ子ニ子ハ孫ニ代々語リ繼テ、生活ノ方針トナスアリ、又蕃族ニヨリテハ青年クラブノ設アリテ、一村ノ青年男子ハ各自晝間ノ業ヲ終レハ、夜ハ必ス此所ニ集マリテ父老ノ功名談又ハ祖先ノ遺訓等ヲ聞キ、以テ氣節ヲ養ヒ、又互ニ相研鑽スルコト恰モ薩摩ニ於ケル健兒ノ社ノ如キモノアリ。又馘首ノ目的ヲ以テ出草スル際ノ如キハ、家ニ十二三歳ノ男子アレハ父ハ之レヲ同行シ、殺人馘首ノ實況ヲ視セシメ補助セシメ、又ハ殺馘シタル首級ヲ其ノ幼兒ニ負ハシメテ凱旋スル等ノ事ハ通常ニシテ、兒童ノ教育ニ勉ムルコトハ甚タ切ナルモノアリ、唯其ノ俗ヲ異ニスルカ爲ニ、其ノ教育ノ方法モ亦卑陋ナルコトアルノミ、卑陋ナル教育ハ卑陋ナル風俗ヲ作リ、蠻性ヲ增長セシム、吾人ハ宜シク其ノ長短ヲ鑑別シテ調教養育ノ道ヲ講セサルヘカラサルナリ。

清政府時代ニ於テ蕃人教育ハ各所ニ行ハレタリ、然レトモ今日ニ於テ其ノ遺業ノ見ルヘキモノ一モ之レナキハ何ソヤ、他ナシ構成複雜ナル形象文字ヲ以テ教育シタレハナリ。支那ノ形象文字ハ最早今日ニ於テハ世界ノ文明ト共同生存スルコトヲ得ルヤ否疑問ナリ。我邦ノ如キモ從來ハ措テ論セス、今後ニ於テハ形象文字

ノ使用多キタケ其レ丈ケ世界ノ文明ニ後ルルコト大ナラン。此ノ如ク困難ノ伴フ形象文字ハ蕃人教育ニ就テハ成ルヘク之レヲ省キ假名ヲ主トシ、以テ習熟ニ容易ナラシメ、一ハ彼等固有ノ蕃語ヲ文筆ニ表ハシ相互通信ノ便ヲ開カシメ、一ハ速ニ國語ヲ習得セシムルノ道ヲ開クヘキナリ。

蕃人ニ對スル教育ハ、初期ノ間ハ成ルヘク程度ノ低キヲ可トス、蕃人ハ概シテ普通人ニ比スレハ其ノ能力低キカ如シ、戰鬪ノ際ニ於テ發揮スル彼等ノ能力ハ侮リ難キモノアリト雖モ、進歩シタル熟蕃ト支那人種トノ生存競爭場裡ニ於テ、多ク彼等カ支那人種ニ一籌ヲ輸スルトコロヲ見レハ蓋シ能力低カラン乎、且又性質不明ノ新附ノ民ヲ教育スルハ愼重ヲ要スルヲ以テ、先ツ低度ノ教育ヲ授ケ順良ノ農民タラシメテ以テ生計ノ向上ヲ圖ルコトヲ專一トスヘキナリ、生活上直接必要ナキ智識ヲ注入スルハ急務ニアラス、然リト雖モ蕃人中亦秀才アリ、普通人ニ讓ラサル能力ヲ有スルモノアリ、此ノ如キハ宜シク拔擢シテ普通人同樣ノ教育ヲ授ケ、又或ハ醫學其ノ他特殊ノ學業ヲ授ケテ蕃人中ノ先達トナシ一般蕃人啓發ノ任ニ當ラシムヘキナリ。

蕃人ノ教育ハ特殊ナルヲ要ス、抑〻教育ハ其ノ社會ノ生活狀態ニ適合セサレハ益少クシテ害多シ。蕃人ノ社會狀態ハ吾人ト全ク別ニシテ其ノ風俗習慣ノ異ナルコト天地霄壤ノ差アリ、故ニ今吾人社會ニ於ケル教育法ヲ以テ直ニ彼等ノ間ニ行ハントスレハ、彼等ハ或ハ却テ不便トシテ嫌忌シ、彼等ヲ教育スルノ目的ニ反スルノミナラス施政上或ハ害トナルコトアラン、故ニ吾人ハ彼等ノ兒童ヲ教育セントスルニハ先ツ彼等風俗習慣ノ在ル處ヲ精密ニ調査シ、彼等ノ生活ニ最モ須要ナル學科ヲ選ンテ之ヲ授ケ惡習ハ之レヲ矯メ、良風ハ之レヲ存シ漸次向上セシメテ遂ニ我ト同化セシムルコトヲ圖ルヘキナリ。

蕃人ノ教育ハ現今ニ於テハ先ツ德育ニ重キヲ置キ智育ハ之レニ次クヘシ現今ノ急務ハ順良ナル農民ヲ作ルニアルヲ以テ高尙ナル智識アル人民ヲ要セス、加之今尙ホ蕃人ノ性狀風俗習慣等ノ研究不充分ナル時ニ於テ智育宜シキヲ失スレハ或ハ狡獪ナル難治ノ民ヲ生シ或ハ徒食ノ游民ヲ生ス、是レ施政上ノ不利ノミナラス彼等ノ不幸ナリ、故ニ先ツ德育ニ重キヲ置キ智育ハ低キヨリ之レヲ始メ一面彼等ノ風俗習慣ヲ調査シ、彼等ノ心理狀態ヲ明カニスルニ至テ、漸次其ノ度ヲ高メテ智德併行ノ教育ヲ施シ、終ニ文明ノ圈內ニ入ラシムヘキモノナリ。世界ノ或ル民族カ口ニ人道ヲ唱ヘナカラ其ノ行フ處ヲ見ルニ新附ノ異人種ニ對シテハ之レヲ愚ニシ之レヲ奴隸視シ飽クマテ之レヲ抑壓シテ終世我カ文明ノ圈內ニ入ラシメサランコトヲ努ムルカ如キハ吾人ノ大ニ取ラサル處ナリ、吾人カ暫ク之レヲ抑ユルハ後ニ之レヲ伸サンカ爲ナリ暫ク之レヲ教ヘサルハ後大ニ學ハシメンカ爲ナリ、吾人ノ主義ハ至愛ナリ我朝至仁ノ聖意ヲ奉體シテ之レヲ四方ニ宣傳セント欲スルモノナリ、是レ東西ニ施スモ悖ラサル處ナリト信シテ疑ハサルモノナリ、蓋シ難事ナリ然レトモ難事ナルカ故ニ之レヲ棄ツルハ吾人ノ敢テセサル處ナリ、今教育所ニアル蕃童學生ノ數ヲ擧クレハ左ノ如シ。

公學校（蕃務機關以外）ニ在ル學生數

大正元年十二月末現在

阿緱廳	一〇一
臺東廳	九二四

花蓮港廳	九八一
合計	二、〇〇六

蕃務官吏駐在所ニ於テ教育セラル、學生數　大正元年十二月末現在

臺北廳	三二
宜蘭廳	一三
桃園廳	五二
新竹廳	五九
臺中廳	三三
南投廳	四八
嘉義廳	三〇
阿緱廳	四六六
臺東廳	二七三
花蓮港廳	一〇
合計	一、〇一六

三　布教

蕃人亦宗教心アリ日常ノ生活之レニ依テ指導セラル而モ最モ強キ指導力ヲ有スルモノナリ、故ニ蕃人ヲ統治セントスルモノハ必ス此ノ宗教心ヲ度外視スヘカラス、蕃人ハ一種ノ神靈ヲ信シ又死者ノ亡靈ヲ信ス、例ヘハ自己ノ身ニ病起ルカ又或ル希望ノ達セサルカノ時ノ如キハ、是レ亡父ノ靈我ヲ災スルナラント云ヒ又ハ一家病者多キカ又ハ一期ノ收穫少キ時ノ如キ、是レ祖先ノ靈怨ルカ爲ナラント云ヒ、又天災時變アルカ又ハ惡事ヲナシタルモノカ災難ニ逢ヒタルトキノ如キ、是レ神罰ナリト云ヒ虛言ヲ吐ケハ神ノ咎ヲ受クルト云フカ如キ是レナリ、之レニ反シテ大小ノ慶事アルカ又ハ希望ヲ達シタルトキハ、亡靈又ハ神靈ノ加護ニ依ルト云ヒ其ノ他夢又ハ鳥ノ鳴聲等ニ依テ吉凶ヲトスルカ如キ迷信亦少カラス、此ノ信仰又ハ迷信ハ彼等ヲ驅テ能ク善事ヲナサシメ又能ク惡事ヲナサシム、彼等ノ社會ニ於ケル一大勢力ナリ、之レヲ指導シテ惡ヲ去テ善ニ遷ラシムルハ宗教家ヲ以テ最モ適當トス、此ニ於テ蕃界ニ布教師ヲ採用セリ加之前章ニ論シタルカ如ク蕃人教育ハ德育ニ重キヲ置ク要アルヲ以テ布教師ヲシテ教育事業ト連絡ヲトラシメ教育ト宗教トヲシテ相背馳セシメス相調和シテ以テ蕃人ノ品性陶冶ニ協力セシメンコトヲ希圖シタリ、吾人ノ社會ニ於テモ尙ホ宗教ノ必要ヲ感シツヽアルニアラスヤ、況ンヤ蕃人ノ如キ智識ノ程度低キ人種ニ於テハ宗教ノ力ニ依テ高尙ナル感情ノ培養ヲ勉ムルノ外途アルヘカラス、然レトモ吾人文明社會ニ行ハル、宗教ヲ其ノ儘直ニ移殖セントスルトキハ或ハ大ナル過失ニ陷ルナキヲ保セス、依テ先ツ普通道德ノ範圍ヲ出テサル程度ニ於テ教養シ特殊ノ宗教ノ布殖、蕃人ノ心理研究ヲ遂クルニ從テ徐々ニ其ノ歩ヲ進ムレハ希クハ過ナカランカ其ノ實施法ハ識者ノ考

案ニ俟ツ所ナリ。

布教師ヲ採用シタルノ理由ハ茲ニ止ラス、亦財政上ノ利益ニ於テ得ル處アルカ爲ナリ、宗教家一人ノ俸給ハ巡査一人ノ俸給額ヲ超ヘス、而シテ其ノ永久蕃地ニ止リテ蕃語ニ通シ蕃情ヲ明カニスルニ至レハ教育ノ補助者トナリ蕃人信頼ノ目標トナリテ蕃人感化ニ貢献スル處巡査ニ優ルモ劣ルコトナカルヘシ、又蕃界職員ハ深山幽谷ノ地ニ一名或ハ二三名宛散在シ監督上甚タ不便ナルヲ以テ駐在巡査ノ如キハ最モ人物ノ選擇ヲ重ンセリ、而シテ其ノ人ヲ得ルコト頗ル難シ、然ルニ宗教家ハ俸給ノ低キニ甘ンスルカ故ニ同俸給ノ程度内ニ於テハ、普通人中ニ於テヨリモ宗教家中ニ於テスル方其ノ人ヲ得易シ、又宗教家必スシモ高尚ノ人物ノミナラスト雖モ唯其ノ本來ノ職トスル處ノ異ナルカ爲ニ、自ラ社會ノ制裁モ重ク巡査ニ比スレハ監督上ノ困難少キナリ。

從來採用シタル布教師ハ禪宗、眞宗ノ僧侶ニシテ間々妻帶者アリテ其ノ婦女ハ男子ノ教務ヲ補助ス其ノ數左表ノ如シ（布教師ハ大正二年六月全部罷免セラル）

蕃人教化事務囑託數

大正元年十二月末現在

臺北廳	二
宜蘭廳	一
桃園廳	四
新竹廳	三
臺中廳	一
南投廳	七
阿緱廳	二
臺東廳	一
花蓮港廳	一
合計	二三

四　物品交換

蕃人ハ自己ノ需用品ノ一部ハ自ラ製産スルコトヲ得ルモ其ノ他ハ製産スルコト能ハス、故ニ蕃界ニ産スル各種ノ産物ヲ以テ平地ノ物品ト交易シテ自己生活ノ資料トナス、例之ハ獸皮、鹿角、鹿鞭、猿骨、ラミー、蒲草等ハ彼等カ狩獵又ハ農耕ニヨリ得ル處ノモノニシテ、之ヲ平地ニ搬出シテ平地ヨリスル食鹽、綿布、毛糸、農具、蕃刀、衣類附屬ノ裝飾品等ト交易ス之レヲ物品交換ト稱ス、物品交換ニ依ラサレハ彼等ノ需要ヲ充タスコト能ハス、故ニ交換ハ彼等ノ熱望スル處ニシテ物品交換ノ權ヲ握ルモノハ蕃人ヲ操縱スルコトヲ得ヘシ、由來平地土人中ノ通事ナルモノカ、蕃人ニ對シテ最大ノ勢力ヲ有シタルハ、物品交換ヲ以テ自己等ノ

專業トナシタルカ故ナリ、物品交換ノ事豈ニ忽カセニスヘケンヤ、物品交換ハ威壓ニハ之レヲ制限スルモ撫育ニハ之レヲ寛裕ニシ、未歸順蕃ニ對シテハ之レヲ禁止スルモ歸順蕃ニ對シテハ成ルヘク之レヲ容認ス、其ノ寛嚴ノ度ハ歸順ノ程度ニ依テ異ナリ、又蕃人產出ノ物品ニ特ニ價格ノ高下ヲ作爲シテ抑揚ヲ示スカ如キモ亦撫育ノ一助トナスニ足ルヘシ、例之ハラミー、蒲草ノ如キハ之レヲ高價ニ交易シテ以テ農業ヲ奬勵シ、獸皮、獸角、鹿鞭ハ之レヲ安價ニ交換シテ狩獵ノ防止法トナスカ如シ、此ノ如ク物品交換ニヨリ蕃人ヲ操縱スルコトハ理蕃上有益ナル一手段タリ。

物品交換ノ事業ハ北蕃ニ對シテハ警察官吏(愛國婦人會ノ囑託ニヨリ)之レニ當リ且ツ隘勇線ノ設アルヲ以テ其ノ監督嚴正ニ行ハルト雖モ、南蕃ニ對シテハ多ク特許事業トシテ人民ノ經營ニ委スルヲ以テ、取締上甚タ困難ナリ、其ノ交換營業者ハ都テ土人ニシテ蕃語ニ精通スルニ因リ、動モスレハ蕃人ニ對スル勢力警察官ヲ凌駕セントスルモノアリテ、操縱意ノ如クナラス、今日ノ狀態ヲ以テ昔日ニ比スレハ、其ノ進況同日ノ論ニアラスト雖モ、而モ今尙ホ此ノ如キノ狀態ヲ全ク脫却セシムル能ハサルハ甚タ遺憾トスルトコロニシテ、今後益〻交換營業者ノ取締監督ヲ嚴重ニシ、出來得ル丈ケ土人ヲ驅逐シテ之レヲ警察官ノ手ニ收メ、平和的施設ノ方面ヨリ理蕃事業進捗ニ裨益センコトヲ努メサル可ラス。

五　醫療

蕃人ハ疾病ニ罹ルモ醫療ノ法ヲ知ラス、唯僅カニ祖先ヨリ其ノ經驗ヲ傳ヘ來レル草根木皮ヲ服用シ、若クハ罷法的ニ患部ニ貼慰シ又創口ニ熱湯ヲ濺キテ治癒ノ助ケトナスコトアルニ止マリ、其ノ他ハ迷信ニ因ル祈禱アルノミナレハ醫療法ハ皆無ナリト謂フモ不可ナキナリ。從テ病ヲ恐ルルコト甚タシ故ヲ以テ施療施藥シテ其ノ疾ヲ治癒スレハ、彼レ恩惠ヲ感スルコト實ニ深キモノアリテ懷柔ノ效果此ノ如ク速ナルモノアラサルナリ、勞力ト經費ト少クシテ其ノ效多キハ實ニ醫療ノ右ニ出ツルモノアラサルヘシ、故ニ醫療ハ最モ努メサルヘカラス、然リト雖モ如何セン今日ニ於テハ、此ノ少額ノ經費モ尙ホ支出ノ途乏シク、加之醫師ヲ得ルコト容易ナラス開業免狀ヲ有スル醫師ハ平地ニスラ其ノ缺乏ヲ訴フル今日ニアリテハ、好ンテ蕃地ニ來ラントスル者ハ容易ニ之レアラス、仍テ已ムヲ得ス前期免狀ヲ有スルモノ又ハ之ヲ有セサルモ醫療ノ經驗アルモノハ之レヲ採用シテ蕃地ニ入ラシメ、蕃語ヲ研究シ感化事業ヲ贊助セシメツヽアリト雖モ其ノ力微弱ニシテ遺憾甚タ深シ。

六　觀光

吾人ハ蕃人ヲ見テ劣等ナリ弱小ナリトナスモ、蕃人自ラ信スル處ハ之レニ反シ、彼等ハ自ラ優者ナリ强大ナリトナシ吾人ヲ輕侮シテ劣弱ナリトス、是レ他ナシ古來山中ニ棲息シ他ト交通ヲナサス、彼等ノ蔑爾タル境域ヲ以テ天地トナシ自己ノ外ニ社會アルヲ知ラス彼等ノ腦裡ニ映スル日本人ハ蕃地ニ往來スル少數ノ日本

人ナリ彼等ノ胸中ニアル臺灣人ハ時々蕃地ニ出入スル若干ノ隘勇腦丁ナリ、宜ナル哉彼等カ自ラ尊大ニシテ他ヲ眇視スルヤ、彼等ノ天然ノ思想ハ此ノ如ク驕慢ナリ、此ノ驕慢心ハ即チ萬惡ノ淵源ナリ、此ノ驕慢心アルカ故ニ吾人ニ對シテ暴言ヲ吐キ暴行ヲ敢テシ容易ニ出草シテ人ヲ殺シ又朋黨シテ反抗ヲ企ツルモノナリ、若シ能ク此ノ驕慢心ヲ撲滅スルコトヲ得ハ、則チ蕃界忽チ廓清ヲ見ルコトヲ得ン、而シテ其ノ驕慢心ヲ降服スルハ觀光ヲ以テ最モ輕便トス、抑〻驕慢心ハ彼等カ蕃地ニ在テ井蛙ノ管見ヲ以テ自他人員ノ多少ヲ比較シ速斷シテ以テ自ラ强大ナリトスルニ基クヲ以テ、之レヲ平地特ニ日本內地ニ誘致シテ無數ノ日本人ノ群集スルヲ見セシムレハ迷夢ハ忽チ消散ス、之レニ加フルニ軍隊ノ教練、大砲小銃ノ使用製造、彈藥ノ豊富、軍艦ノ操縱、各種製造所ノ活動等ヲ實見セシムレハ、初メテ日本ノ勢力ノ偉大ニシテ彼等ノ小智ヲ以テ想像シ能ハサルコトヲ悟リ驕慢心ハ忽チ變シテ恐怖ノ念トナル、既ニ恐怖ノ念ヲ生セシムレハ則チ目的半ハ達シタルモノニシテ、此ノ念一タヒ起レハ害易ニ脫却セサルヲ以テ其ノ後ハ漫リニ兇行ヲ敢テセサルノミナラス、其ノ恐怖心ヲ他ニ傳播シテ他ノ兇行ヲ制止スルノ原動力トナリ、統御上ノ便ヲ得ルコト少小ナラス豈ニ等閑ニ附スヘケンヤ。

又蕃人ハ異人種ヲ敵視スルヲ常トス、彼等相互間ニ於テ既ニ生存競爭ノ劇甚ナルヲ見ル、況ンヤ異人種ニ對スルニ於テヲヤ、異人種ハ必ス自己ヲ迫害スルモノトナシ猜疑ト憎惡トヲ以テ充タサル是レ彼カ容易ニ撫ニ就カサル所以ナリ、此ノ猜疑ノ念ヲ除カスンハ撫蕃ノ效ハ遂ニ收ム可ラス、而シテ觀光ハ此ノ念ヲ去ルニ最モ效アルモノナリ、彼等ハ異人種ヲ以テ敵トスルカ故ニ勸誘ニヨリ出テ來テ平地又ハ日本內地ヲ觀光スルニ、初メノ中ハ戰々兢々トシテ不安ノ情ニ堪ヘサルモノ、如シ、然ルニ滯在數十日東西ニ往來シ至ル處ニ歡待ヲ受ケ優遇セラル、ノミニシテ、絕エテ一人ノ彼等ニ向ツテ侮辱暴行ヲ加フルモノナキヲ見ルニ及ンテ、茲ニ初メテ日本人ノ仁愛ナル心情ニ接觸スルコトヲ得、翻然トシテ從來自己ノ誤解ヲ悟リ、日本人ノ親シムヘキコトヲ知リ己レ兇行ヲナサ、レハ必ス日本人ノ迫害ヲナサ、ルコトヲ確信スルニ至ル、此ニ於テ始メテ懷柔ヲ用フルコトヲ得ヘシ。

要スルニ觀光ハ蕃人ノ驕慢ト猜疑トヲ一轉シテ、畏怖ト愛敬ノ念ヲ生セシムレハ足ルモノナリ、此ノ心機ヲ一轉セシムルニハ勞費少クシテ效果多キコト觀光ニ若クモノナシト信シテ疑ハス、若シ夫レ或人ノ言ノ如ク蕃人ヲ觀光セシムルモ、文明ノ事物到底彼等之レヲ解釋スルノ能力ヲ有セス、從テ歸山後忽チ一切ヲ忘却シテ一物ヲ留メサルニ至ル、故ニ觀光ハ損アリテ得ナシト云フハ、是レ蕃人觀光ノ目的ヲ智識ノ收得ニ置クカ爲ニシテ、未タ蕃人ノ心裡ヲ知ラス、又觀光ノ目的ヲ誤ルニ因ルモノナリ。

蕃人ノ觀光ノ效ハ右ノ如シト雖モ觀光セシムルコト甚タ困難ナリ、彼等ハ猜疑ノ念深キヲ以テ容易ニ勸誘ニ應セス、若シ容易ニ應スルモノハ既ニ歸順安心シタルモノナルヲ以テ寧ロ觀光ノ必要ヲ見ス、最モ必要アルハ未歸順蕃ナレトモ全クノ未歸順蕃ハ容易ニ出テ來ラス、依テ先ツ半歸順ノ狀態ニアル蕃人ヲ勸誘シテ觀光セシメテ以テ安心ヲ與ヘ、之レヲ未歸順蕃ニ波及シテ其ノ猜疑心ヲ柔ケ、遂ニ勸誘ニ應セシムルニ至ルヘ

キナリ、若シ飽クマテ之レニ應セサルモノハ已ムヲ得スシテ武力ヲ加フルノ外ナキナリ、其ノ武力ヲ加スルノ時ニ至ラモ既ニ觀光ノ影響ヲ受ケタルモノハ解決速ナリ。

七　一般警察的保護

蕃人モ亦人類ナリ社會的生活ヲナセリ故ニ又競爭絶ユルコトナシ、夫婦ノ喧嘩アリ、箇人間ノ財産紛議アリ、勢力ノ爭アリ、土地ノ境界問題アリ、蕃社間ノ交渉事件アリ、種族又ハ部族間ノ軋轢アリ、其ノ他競爭場裡ノ出來事ハ彼等ノ間ニ紛起シ、彼等自ラ亦苦痛トスルヤ勿論ナリ、故ニ日常其ノ間ニ立テ居中調停ノ勞ヲ取テ其ノ爭鬪ヲシテ甚タシキニ至ラサラシムルモノアルハ彼等ノ便トシ德トスル處ナリ、此レヲ以テ蕃界駐屯ノ警察官ヲシテ絶エス大小ノ出來事ニ注意シテ調和ヲ圖ラシメ、止惡遷善ノ端ヲ開キ爭鬪ノ忌ムヘクシテ平和ノ愛スヘキコトヲ知ラシムヘキナリ、此ノ事ハ唯ニ彼等ノ爲ニ利益ナルノミナラス又平地人ノ爲ニ利益ナリ、何トナレハ彼等間ノ紛爭其ノ度ヲ高ムルトキハ彼等ハ必ス其ノ勝敗曲直ヲ馘首ニ依テ解決セントスルヲ以テ、調停ニ依テ平地人ノ患害ヲ免ルヽコトヲ得ルカ故ナリ、加之之レニ依テ蕃人ヲシテ漸次我警察權ニ信賴セシムルノ慣習ヲ作リ、又司法權ヲ建立スルノ端緒ヲ開キ、蕃人ヲシテ統治權ノ下ニ服從シテ國家的生活ノ圈内ニ入ラシムルノ段階トナルモノナリ。

第七　結　論

理蕃事業ノ概要ハ以上ノ如クニシテ施設スル事項ハ數項ニ分ルト雖モ、各事項共ニ先ツ銃器ノ整理ヲ以テ目標トシ、此ノ單一ナル目標ヲ以テ各事項共同ノ目標トシ、蕃界全體ヲ通シテ安全地域トナシ、以テ理蕃事業初期ノ一段落トナサンコトヲ期シタルモノニシテ、之ヲ正確ニ云フトキハ五年計畫理蕃事業ハ

一　臺灣蕃界全體ヲ以テ目的物トナシタルモノナリ一部ニ局限シタルモノニアラサルナリ。

二　蕃界ヲ廓清シテ安全地域トシ一般普通人ノ往來出入シ得ルニ至ランコトヲ期シタルモノナリ。

三　蕃界ノ確實ナル安全ハ銃器整理ニアリトシ全力ヲ茲ニ注カントシタルモノナリ。

以上ノ如クニシテ銃器整理ハ絶對ノ要求ナリシナリ、以テ蕃界ノ安全ヲ實現シ殖産興業ノ爲ニ素地ヲ作ランコトヲ期シタルモノナリ、五年計畫ハ此ノ如ク内容アル大ナル要求ヲ懷キタルモノナリ、要求大ナルカ故ニ有ラユル手段ヲ用ヒ熱烈ニ之ヲ實行シテ結果ヲ收メンコトヲ期シタルモノナリ、是レ施設事項ノ多岐ナル所以ナリ、又困難事業ナルカ故ニ目標ヲ簡單明瞭ニシ萬目ヲ銃器整理ノ一途ニ注カシメ、全部ノ機關ヲシテ皆擧テ此ノ一方ニ全力ヲ集注セシメタルモノナリ、故ニ必スシモ討伐ヲ主トセス又懷柔ヲ旨トセス、全島各地蕃情ノ異ナルニ從ヒ或ハ討伐機關ヲ設クルアリ、或ハ懷柔機關ヲ設クルアリ、蕃情相應ニ各種ノ機關ヲ成ルヘク多ク設備シ幹支無數ノ機關ヲ以テ全島ノ蕃界ニ對シ同時ニ活動シテ以テ其ノ效ヲ全キニ收メンコトヲ期シタルモノナリ、其ノ豫期スル所大ニ過クルカ如シト難モ其ノ目的ヲ達シ得ヘシト信スルニハ十分ノ理由存セリ、詳カニ實際ノ經過ヲ通觀スルトキハ即チ事實ハ之ヲ證明スヘキナリ。

凡ソ初メテ事業ヲ起サントスルモノハ必スヤ先ツ其ノ相手トスヘキ事物ノ範圍及情偽ヲ審ニシテ方針ヲ定ムヘキモノニシテ、率爾トシテ着手スヘカラス故ニ理蕃事業ノ經營ニ就テハ。

一　先ツ蕃界ノ眞相ヲ審ニシ。

二　之ニ對スル我カ要求ヲ明確ニシテ方針トシ。

三　其ノ要求ハ如何ニシテ滿足セシメ得ヘキヤヲ攻究シテ手段ヲ定メタリ。

若シ蕃界ノ眞相ヲ審ニセスシテ猥リニ獨斷的方針ヲ立テ、行動スルトキハ、其ノ得ル處ノ結果ハ豫期ノ希望ニ反スルヤ必セリ、之ニ反シテ能ク眞相ニ通スルモ方針ヲ定メスシテ行動スルトキハ徒勞徒費ニ終ランノミ。然リ而シテ蕃界ノ眞相ヲ得ルコト容易ナラス、蕃族蒙昧ナリト雖モ人類ナリ、人事ノ複雜ニシテ變態多キコト吾人ノ日常實驗スルトコロニアラスヤ、況ンヤ蕃人ハ吾人トノ間ニ文化ノ度ヲ異ニスルコト幾千年ナルヲ知ラス、此ノ大間隔ヲ有スル吾人ノ地位ヨリ彼ヲ觀察スル豈ニ容易ノ業ナランヤ、然ルニ或ハ彼等ノ馘首行爲ヲ以テ直ニ吾人ニ對スル反抗態度トナシ、叛亂狀態トナスモノアリ、故ニ之レニ對シテ討伐方針ヲ立ツ、何ソ知ラン彼等ノ馘首ハ一種特別ノ習慣ニ基ツキ、而モ其ノ根底頗ル固キカ故ニ、一朝ノ討伐能ク其ノ習慣ヲ革メ得ヘキニアラス、又或ハ彼等ノ親シミ易キヲ見テ輒チ容易ニ敎ヘ得ヘキノ民ナリト思惟ス、何ソ知ラン平和ハ彼等ノ常態ナルヲ以テ親シムニ格別ノ困難ナシト雖モ、一旦必要ヲ感スルトキハ即チ起テ人ヲ選ハスシテ馘首ス、然ラハ則チ敎フヘカラサルノ蕃族ナリトシテ之レヲ討滅スルノ方針ヲ執ランカ、是レ言

フヘクシテ行フヘカラサルヲ如何セン、畢竟如何セハ則チ可ナルカ他ナシ、彼ノ狀態ニ適應シタル方針處置ヲ取ランノミ、信スヘキ程度ニ於テ彼ヲ信シ信スヘカラサル程度ニ於テ彼ヲ信セス、討ツヘクシテ討チ敎フヘクシテ敎フ是レノミ、特ニ妙案奇策アルヘカラス。

予ハ信ス彼等ノ馘首ハ一種ノ惡習慣ナリト、然ラハ之ニ對シテ如何ナル方針ヲ執ルヘキヤ、曰ク其ノ族ヲ滅シテ餘類ナカラシムルカ又ハ其ノ惡習慣ヲ防止スルカ二途其ノ一ヲ選ハンノミ、而シテ滅族ハ不可能ト稱スヘキ程ニ困難事ナルヲ以テ予ハ惡習慣防止ノ方針ヲ取ルノ最モ得策ナルヲ信スルモノナリ、然ラハ其ノ防止ノ方法如何、曰ク銃器整理ヲ最モ要務トス、銃器ノ整理ハ武力ノミノ能クスル處ニアラス一小部分ノ銃器ナラハ格別、全島ノ銃器ヲ整理スル豈ニ獨リ武力ノ能クスル處ナランヤ、必スヤ武力ト懷柔ト併セ用フルカ又ハ武力ヲ加味シタル懷柔策ヲ用ヒサルヘカラス、地域人口ノ多少ヲ以テ論スレハ、懷柔策ノ行ハルヘキ範圍ハ寧ロ武力ヲ用フヘキ範圍ニ比シテ遙カニ大ナリ、又懷柔ヲ用フヘキ時機ハ武力ヲ用フヘキ時機ヨリ遙カニ多シ、懷柔ハ根本ナリ常道ナリ武力ハ臨時ナリ補助的ナリ、是レ彼等ノ狀況自ラ然ルナリ、馘首ハ彼等ノ立場ヨリスレハ叛亂的ニアラス平常的ナリ、狀況ハ素ヨリ鎭靜ナルカ故ニ討伐シテ之レヲ鎭靜スルノ必要ナキモノナリ、討伐ハ寧ロ却テ動亂ノ原因トナルモノナルヲ以テ討伐ヲ行ヒタルトキハ其ノ結果銃器整理ノ效ヲ收メサレハ其ノ討伐ハ無意味ナルヘシ。

前記數篇ノ理蕃策ハ以上ノ理想ノ下ニ計畫セラレタルモノナリ、而シテ今日マテ收メ得タル理蕃ノ效果ハ

即チ此ノ政策ノ收穫ト云ハサルヘカラス、其ノ收穫ノ多寡ハ之ヲ詳述スルトキハ煩雜ニ渉ルヲ以テ之レヲ避ク、其ノ多寡ノ大要ヲ知ラント欲セハ請フ大正二年六月八日臺灣總督府報民政部分課規程改正ヲ見ヨ、同規程改正ニヨレハ從來蕃務警察所屬タリシ蕃界ノ地域人口ノ約十分ノ八ヲ割テ之レヲ普通警察所管ニ變更セリ是レ其ノ部分ハ既ニ平定ニ歸シタリト認メタルカ故ナラスンハアラス、概數ニ依テ表示スレハ左ノ如シ。

	從來ノ蕃務所管	以上ノ内普通警察ニ移セシ分	蕃務所管トシテ殘リシ分
地域	一、二五〇方里	一、〇〇〇方里	二五〇方里
人口	一二四、〇〇〇人	一〇七、三〇〇人	一六、七〇〇人

蕃界ノ十分ノ八ヲ以テ既ニ平定シタリト云フハ予ノ同意スル能ハサル處ナリト雖モ、蕃界ノ面目ヲ更メタルコトヲ證スルニ足ルヘシ。

又此ノ理想ノ效果ヲ最モ明カニ見得ヘキモノハ四十三年度ニ於テ實行セラレタル事蹟ナリ、之ヲ見レハ蓋シ思半ニ過クルモノアラン臺東、花蓮港廳管内ニ於ケル今昔ノ狀況ノ變化ハ如何、賀田組ノ事業カ蕃人ノ爲ニ常ニ障害セラレ進捗スル能ハサリシ當時ト、内地移民ヲ奬勵シ製糖會社ノ興起シツヽアル今昔ノ差ハ如何、是レ銃器押收ノ功與ラスト云フヲ得ルヤ、南投廳管内全部（ハック、マレツバ方面ノ一局部ヲ除ク）ハ四十四年以來隘勇線ヲ撤去シテ開放ノ實ヲ擧ケタルニアラスヤ、ガオガン地方モ當時前進シタル地方ハ隘勇線ヲ撤去シ警戒ヲ解除シタルニアラスヤ、銃器ハ八千餘挺ヲ押收シタルニアラスヤ、而シテ是レ皆四十三年度中ニ於ケル成績ナリ、此ノ主義政策果シテ姑息ナリヤ緩漫ナリヤ、予ハ此ノ主義ノ包括アリ收局アリ而シテ效果ノ確實ニシテ迅速ナルヲ信シテ疑ハサルモノナリ。

理蕃事業ハ一種ノ政治ナリ是レ根本的觀念タラサルヘカラス、軍事ニモアラス又感化事業ニモアラス、蕃人ナル特別ノ人類ニ對スル特別ノ政治ナリ、蕃人ハ吾人トノ間ニ大ナル文化ノ差異アルカ故ニ其ノ政治モ亦非常ノ差異特別ノ趣向ナカルヘカラス、要スルニ程度ノ低キ政治ナリ、程度低シト雖モ政治ハ何處マテモ政治ナリ、政治ナルカ故ニ武力ヲ以テ兇惡ヲ懲ラスノ精神アルト同時ニ寛容以テ之ヲ懷クルノ用意ナカルヘカラス、蕃人兇惡ナルモノ少カラスト雖モ順良ナルモノ亦多シ、時アリテ兇惡ヲ行フト雖モ之ヲ止ムレハ別人ノ如シ、是レ蕃人ノ常態ナリ、單純ニシテ偏倚セル軍事主義又ハ感化主義ノ豈ニ能ク匡濟シ得ル處ナランヤ、若シ此ノ如キノ主義ヲ懷クモノアラハ是レ未タ蕃人ノ眞相ヲ解セサルモノナリ。

夫レ政治ハ深遠ナル理想ニ基ツキ凡百ノ智識ヲ集メテ完成ヲ期スルモノナリ、對蕃ノ政治其ノ規模小ナリト雖モ此ノ一小編之レヲ悉クスコト能ハス、況ンヤ予カ不文ヲヤ、臺灣總督府ハ理蕃事業ヲ以テ蕃人ニ對スル政治トナサス、又其ノ惡習慣ヲ防止矯正スルヲ以テ目的トセスシテ、討伐スルヲ以テ目的トスルモノナリト云フモ過言ニアラサルヘシ、何トナレハ前記大正二年六月八日臺灣總督府府報ハ之レヲ證明スルモノニア

ラスヤ、其ノ掲クル處ノ民政部分課規程改正ニ依リ、從來ノ理蕃制度ニ向ツテ大改革ヲ施シ、蕃務本署ハ爾後討伐事業ノミヲ以テ職務トシ、討伐以外ノ蕃務行政ハ擧テ之ヲ普通警察ノ所管ニ移セリ、抑〻蕃務本署ハ總督府カ理蕃事業遂行ノ爲ニ特設シタル機關ナリ、然ルニ今討伐事業ヲ以テ蕃務本署ノ專業トナス以上ハ、是レ理蕃事業ハ即チ討蕃事業ナリトノ理想ヲ表明シタルモノナリトスルハ正當ノ推論ナリ、若シ討伐以外ニ理蕃事業アルコトヲ認ムルモ、重要ナラサルカ故ニ他ニ移シテ以テ蕃務本署ヲシテ專心討伐ニ從事セシメンカ爲ナリト云ハンカ、蕃務本署ハ未タ事務ノ過多ナルニ苦シマス、加之蕃務行政ハ討伐事務ト共ニ互ニ相離ルヘカラサルモノナルコト上來所陳ノ如シ、若シ又經費節約ノ爲ト云ハンカ、所管ノ甲乙何レニ屬スルモ經費ニ多寡ノ差アルヘキ謂レナシ、若シ又討伐以外ノ行政費ハ地方稅ニ移スノ必要アリテ所管ヲ變更シタリト云ハンカ、蕃務本署ニ於テ地方稅經費ヲ管掌スルモ規定上何ノ支障ナキナリ、蓋シ地方稅ハ理蕃事業ニ使用シ難シ、故ニ蕃務本署ノ所管ニ屬セシメ難シトノ理由ナラン、即チ討伐主義ノ表明ニアラスヤ、又總督府ハ前記ノ改正ト同時ニ蕃務本署ニ於ケル撫蕃機關ヲ全廢シ調査課ヲ罷メタリ、之レニ依テ討伐方針愈〻明瞭トナレリ、而シテ其ノ討伐事業タルヤ理蕃事業ノ全體ヨリ見ルトキハ其ノ一部分タルニ過キス、但討伐事業ハ其ノ外面ニ顯ハル、處ノ行動ノ賑カニシテ經費ノ大ナルカ爲ニ重要ナルカ如ク見ユルモ、其ノ他ノ行政事務ノ四時ヲ通シ晝夜ヲ分タス、思索運籌シテ全局ノ效ヲ收ムルニ努メサル可ラスシテ寧ロ苦心多キニ比スレハ俄カニ輕重シ難キモノアリ、討伐ハ臨時的ノモノニシテ行政ハ繼續的ノモノナリ、討伐ハ局部的ニシテ行政ハ全般ニ涉ルモノナリ、恰モ一般政務ノ軍事ニ於ケルト相似タルモノアリ、而シテ此ノ討伐事業ヲ以テ直ニ理蕃事業トナス、是レ全局ニ涉リテ蕃族ヲ廓清セントスル强烈ナル忠實ナル希求ナキカ、又ハ蕃界ノ眞相ニ通セスシテ徒ニ獨斷的理想ニ馳スルモノニアラサルナキヲ得ンヤ、此ノ如クニシテ遂行シタル討伐ノ結果ハ果シテ如何ナルヘキヤ、予ハ蕃界ノ廓清容易ニ見ル可ラスシテ永ク聖代ノ汚點ヲ殘サンコトヲ憂テ止マサルモノナリ。

第八　餘　論

理蕃事業ノ急施セサル可ラサル所以ハ、主トシテ經濟上ノ發展ニ資セントスレハナリ、蕃界ニ王化ヲ普クスルト云ヒ又皇威ヲ輝カスト云フモ、若シ蕃界ヲシテ帝國ノ經濟圈內ニ入ラシムルコト能ハスンハ王化モ皇威モ意味ヲ完フセサルヘシ、故ニ蕃界ノ經濟上ノ價値ヲ論スルハ最モ必要ナリト信ス、而シテ此ノ問題ニ就テハ先ニ大正二年六月一日發刊拓殖新報第二十五號ニ掲載セルヲ以テ今之ヲ略ス。

理蕃事業ヲ遂行スルニ就テハ、其ノ機關組織ノ巧拙ハ其ノ成績ノ良否ニ關スルコト最モ大ナリ、單リ五年計畫實施ノミナラス永遠ノ得失ニ關スルヲ以テ愼重ナル研究ヲ要ス、思フニ理蕃機關ノ組織法ニ大要左ノ數種アリ。

一　蕃人蕃地全體ヲ統括スル爲ニ中央ニ特設機關ヲ設ク(從來ノ蕃務本署ノ如シ)而シテ其ノ特設機關ノ權

限ニ二樣アリ。

甲　各般ノ事務ニ向ツテ全然發案權ヲ有スルコト。

乙　各般ノ事務中蕃人ニ關スル分ハ發案權ヲ有シ蕃地ニ關スル分ハ否認權ヲ伴フ合議權ヲ有スルコト。

二　蕃人ノミヲ總括統治スル爲ニ中央ニ特設機關ヲ置クコト。

三　蕃人モ蕃地モ之ヲ總括スルコトナクシテ一切ノ事務ハ普通行政機關ニ分屬セシムルコト、但シ討伐事業ノ存スル間之カ爲ニ特設機關ヲ置クコト。

是レナリ予思フニ現今ノ狀態ニ於テハ(一)ノ方法ニ依ルヲ最モ適當トシ權限ハ甲ニ依ラントス、但シ或ル特別ナル除外ヲ容認ス、而シテ一定ノ時機ニ到達シタルトキハ乙ニ移リ、又漸次(二)ニ移ルヘク(三)ノ如キハ長期限ノ後ニ於テハ此ノ組織ニ依ルヲ可トスルノ時機來ルコトアルヘシト雖モ其ノ時機ハ今逆睹シ難シ、理蕃事業ノ進捗ヲ努ムル間ハ斷シテ依ルヘキモノニアラスト信ス、然ルニ臺灣總督府大正二年六月八日ノ府報ニヨレハ一躍シテ(三)ノ組織法ヲ取レリ、其ノ主旨何レニアルカヲ知ラス、理蕃事業ヲシテ遂ニ支離滅裂ニ終ラシメサレハ幸ナリ。

終リニ蒞ンテ更ニ前言ヲ繰リ返サントス全編ノ理蕃策豈ニ敢テ予ノ獨創ニ出ツルモノトナサンヤ、長年月日斯業ノ爲ニ具サニ艱難ヲ嘗メ心血ヲ傾ケタル當局諸士ノ衆思ヲ集メタルモノナリ、斯業ノ難局ニ當リ空シク蕃山ノ露ト消エタル幾千百忠勇熱誠ノ凝結シタルモノナリ、若シ其ノ成績ニ至テハ上司統帥ノ功勞ニ歸セスンハアラス予豈ニ與ランヤ、錄シ終ツテ筆ヲ投セントスレハ夜陰雨濕ウテ鬼哭啾々タリ。

大正二年八月二十五日

餘論ノ參照

經濟上ノ理蕃事業ノ一節

（大正二年六月一日拓殖新報第二十五號拔萃）

（前略）先ヅ經濟上ヨリ見タル理蕃事業ハ如何ナルモノデアルカト云フコトヲ少シ顧ミテ見タイ、實ハ此ノ事業ハ得ノ行ク仕事カ、損ノ行ク仕事カト云フコトヲ、少シ素人考ヘデハアルガ考ヘテ見タノデアル。尤モ今日マデ考ヘテ居ツタガ未ダ世間ニ發表シタ事ハナイ、夫レハ何故カト云フト、吾々ハ警察官デアツテ錢勘定ハ至ツテ迂ク、ノミナラズソレ程ノ智識モナケレバ調査スル能力モナク、從ツテ人ニ誤ツタ事ヲ傳フルモ宜クナイト思ウテ居ツタカラデアル、併シ之ヲ若シ吾々ガシナカツタナラバ誰ガスルカト云フト、蕃地ノ事デアルカラ誰モシナイ。サウスルト經濟上ノ有樣ガ分ラヌ樣ニ、或ハ理蕃事業ト云フ事ハ詰ラヌ事デアル、國家經濟ノ逼迫シテ居ル際ニ、斯ル事業ニ金ヲ投ジテ成功シテモ儲リモシナイ、一層止メタラドウダラウト云フ樣ナ考ガ、或ハ世間ノ或方面ニハ存在シテ居ヤシナイカト思フ、否爾云フ話ヲ時折聞クノデアル、其處デ素人ナガラモ自分ノ考丈ケヲ發表スル必要モアル、又吾々ノ立場カラモ其ノ義務ガアルト考ヘテ茲ニ發表スルモノ、、何分蕃地ヲ悉ク調ベ盡シタ譯デモナイカラ甚ダ杜選デアル、併シ一方專門家ノ意見ヲモ聽テ吾々ノ短所ヲ補フニ力メタ次第ダ。

此ノ理蕃事業デ經濟上如何ナル利益ガアルカト考ヘテ見ルト、第一此ノ理蕃事業ヲセヌ以前ト今日トハ如

何デアルカト云フコトヲ考ヘナケレバナラヌ、全島面積ノ二分ノ一以上ノ蕃地ヲ有ツテ居ル生蕃ハ、北カラ南マデ皆首狩種族デ——此ノ離レテ居ル紅頭嶼ノ蕃人ヲ除イテハ皆首狩種族ダ。——二十八九年即チ領臺當時ハ臺東ニ行クニモ是非恒春方面ヲ通ラナケレバナラズ、其ノ沿道ノバイワン族ノ近所ヲ通ルニモ危險デアツタガ、今日デハ餘程穩トナツテ反抗モシナイト云フ狀況ニナツテ居ル、即チ當局者カ種々骨ヲ折ツタ結果今日デハ首ヲ取ラヌヤウニナツテ來タ。デ首狩ノ最モ多イ時分ハ一年ニ五百乃至六百位取ツテ、一日ニ一ツ幾ラ二ツ足ラズノ首ヲ取ツテ居ツタノデアル、東京デ首無シガ一ツモ出ルト百何十萬ノ人ガ一時ニ騷ギ出スガ、臺灣ハナカ〳〵ソンナ事デナク、毎日首無シ事件ガ起ツタノダ、夫レデハ到底殖產興業處デハナイ、山カラ離レタ所デナケレバ安ンジテ仕事ヲスル事モ出來ヌ樣ナ、不安ノ念ヲ懷カシテ置クト云フコトハ、臺灣ノ殖產興業ニ幾何ノ不利益デアルカト云フコトハ直グニ分ル話ダ、此ノ首狩ヲセヌ樣ニシテ人心ヲ安ンズルト云フコトハ、殖產興業上非常ナル善影響デアルコトハ事實間違ナイコト、思フ。

夫レデコレヲ數字上カラ說明スルト先ヅ製腦事業ダ、是レガ一番數字的ニ明瞭ニ分ル、臺灣デハ一年ニ五百萬斤乃至六百萬斤ハ毎年出ル、六百萬斤ヲ金ニシテ見ルト四百六拾餘萬圓——是レハ時ノ相場ニ依ツテ多少ノ相違ハアルガ、四十四年度ノ相場デ云フト四百六拾萬圓樟腦カラ上ツテ居ル、而シテ其ノ樟腦ノ產地ハ悉ク蕃地デアル、一番惡イ蕃族ノ居ル所カラ餘計出ルガ、今理蕃事業ヲ廢メタラバ此ノ四百萬圓カラノ收入ハ全部無クナルト云フコトハアルマイガ、少クトモ其ノ大部分ハ無クナルニ相違ナイ、デ此ノ理蕃事

業ニ約參百萬圓ノ金ヲ使ツテ居ルガ、假リニ參百萬圓ノ收入ヲ失ツタトスレバ、之ヲ廢メタガ爲ニ百萬圓ノ損トナル。若シ四百萬圓ノ全部損シナイデモ、參百萬圓損シタナラバ元々デアルケレドモ此ノ理蕃事業ニ費シタ參百萬圓ト云フモノハ、皆本國ニ於テ使用シ海外ニハ出ナイ金デアル、參百萬圓ノ金ハ帝國ノ間ニ止マツテ居ル、所ガ四百萬圓乃至四百六拾萬圓ト云フ金ハ殆ド大部分ハ外國カラ入テ來ル。即チ帝國ノ富ニナルメダカラ、此ノ理蕃事業ヲ廢メルト然ラザルトノ得失關係ハ、其ノ樟腦ノ利益一方ヲ見テモ見易イ道理デアル、然モ蕃地ヲ平定スレバ際限ナク毎年收入ガ上ル、世界ノ需要サヘ續ケバ何時マデヽモ供給シ得ルノデアル、今專門家ノ計算シタ所ニ依ルト、現ニ蕃地總體ニアル所ノ樟腦中デ若イ木モアレバ古イ木モアルガ、現在直グ伐ツテ樟腦ニ爲シ得ルト云フダケデモ約九千貳百萬斤位ハアル、其ノ外直グニ伐レナクトモ若木ガ段々大キクナリ、又植林シタノガ物ニナツテ製腦ノ原料トナレバ、臺灣ノ製腦ハ無限ニ繼續スルコトニナル譯デアル。

其ノ外ノ森林——臺灣ニ於テハ海拔六千尺以上八千尺ノ間ト云フモノハ一面ニ檜ノ地帶ト言ツテ宜イ、是レハ全部ノ蕃地ヲ開發シタノデナイカラ吾々ノ目ノ屆カヌ所モマダアルガ、今日マデ占領シタ所ニシテ六千尺カラ八千尺マデハズツト檜デアルト云フコトヲ見レバ、ソノ狀況モ想像サレルノデアル、併シナガラ臺灣全島ニ檜ノ森林帶ノ山脈ガ絶間ナシニ續イテ居ル樣デモナイ、地質ノ關係トカ或ハ生蕃ガ獵ニ出タ間ニ燒タトカ、或ハ開墾ノ盛ンナ爲ニ燒タトカ、サウ云フ所ハ坊主山ニナツテ居ル所モアリ、悉ク檜トハ言

ヘヌガ先ヅ餘程ノモノガ有ルヤウニ思ハレル、而シテ其ノ六千尺ノ檜ノ地帶ノ下ニハ何ガアルカト云フト、其處ニハ無數ノ樫ノ木カ副ウテ居ル。デ此ノ樫ハ今日ハ內地ニ於テ餘程缺乏シテ居ル、殊ニ或方面ニ於テハ將來此種ノ木ノ需要ヲ大ニ感ゼラレルト云フコトデアル、其處デ今開發サレタル阿里山、之レヲ數字ノ上ニ出シテ見タナラバ他ノ山モソレト比較シテ想像スルコトガ出來ル、阿里山ハ今年ノ收支計算デハ百五拾萬圓ノ收入ト云フコトニナツテ居ルガ、ソレニ對スル經費ハ八拾五萬圓、夫レヲ差引ト六拾五萬圓ニナル、之レヲ假リニ五百萬圓資本ノ私設事業ト見テ、ソレニ對スル六分ノ利子參拾萬圓ヲ引イテ見ルト純益トシテ參拾五萬圓殘ルト云フ計算ニナル、是レハ本年ハ十四萬尺〆ノ製材ヲスルト云フ計算カラ出テ居ルノデアルガ、來年度カラハ事業ガ擴張サレテ二十萬尺〆ヲ出ス事ニナツテ居ル、其ノ二十萬尺〆ヲ三十五年間繼續スルト云フコトガ出來ルト云フガ、此ノ三十五年間ノ其ノ全部ノ收益ガドウナルカト云フト、即チ唯山カラ出タ木ノ代ダケヲ計算スルト六千九百五拾萬圓ト云フ大キナ金ニナリ、是レカラ利子雜費ト云フヤウナモノヲ引イタ純收入ハ何程カト云フト、千八百七拾壹萬圓トナル。之レハ單ニ阿里山ノミニ就テノ數字デアルガ阿里山以外ノ山デモ決シテ阿里山ヨリ小サクハナイ。今後阿里山ノヤウナ山ガ幾ツ現ハレルカソレハ分ラナイガ、蓋シ少ナクハナカラウト思フ。

ソレカラ次ハ鑛物デアル蕃地ヲ開發シタナラバ今後必ラズ種々ナ鑛物ガ現ハレルデアラウト云フコトハ、是レハ世間ノ人ニ依ツテ專ラ唱ヘラレテ居ル所デアツテ、又決シテ空想ニ終リハシマイト信ズル、然モ如

何ナル根據アッテ斯ノ如キ想像ヲ爲スカト云ヘバ、今蕃界カラ流レテ居ル所ノ河ノ中デ砂金ノ出ル所ガ往往アル。シテ見レバ其ノ源ニハ金山ガアルト云フコトヲ想像サレルノデアル、又專門家ノ語ル所ニ依レバ銅モアルダラウト云フコトデアル、而シテ其ノ量ハドノ位カ分ラヌガ現ニ採掘シテ居ル所モアリ、又其ノ端緒ヲ見付ケ出シタ所モアル、其ノ外大理石ノ如キモ今日ハ既ニ開發サレタル蕃地ノ中カラ幾分ヅヽ切リ出シテ居ルシ、又スレートノヤウナ物モ大分出テ、臺北邊デハ建築材料ニ使ッテ居ル、殊ニ南部ノ蕃族ハスレートデ自分等ノ家ヲ造ッテ屋根デモ壁デモ床デモ皆石盤ヲ使ッテ居ル、又石炭モ必ラズ蕃地カラ出ルダラウト云フコトデアルガ、是レハ現在蕃地以外ニ於テモ石炭ハ澤山出ル所ガアル、專門家ノ推測ニ依レバ必ラズ蕃地カラ石炭モ石油モ出ルデアラウト云フ、斯ノ如キ鑛物ニ於テモ少カラヌ利益ガ上ルト云フコトハ、第一專門家ガ考ヘテ居ルノミナラズ、吾々トテモ素人ナガラ信ジテ居ル、之レハ如何ニモ漠トシタ話デアリマスガ、今基隆ノ金山——其處カラ出ル金ガドノ位アルカ、又其ノ金山ノ價ガドノ位カト云フコトヲ考ヘレバ、今後現ハレルデアラウト云フ金山ニ對スル推測モ出來ルト思フ、基隆ノ金山ヲ今値踏シテ見ルト、四十四年ニハ其ノ當時ノ相場デ貳百貳拾貳萬八千八百貳拾六圓ト云フコトニナッテ居タ、所ガ日本全國ノ產金高ハドウカト云フト全部デ四百五拾萬圓ダ、其ノ四百五拾萬圓ノ中臺灣カラ出ルノガ貳百貳拾貳萬八千幾ラト云フト、臺灣ガ日本ノ產金額ノ殆ンド半分ハ負擔シテ居ルト云フコトガ云ヘル、而シテ此ノ通リノ山ガ將來蕃地カラ出ルカドウカハ分ラヌガ、吾々ノ最負目カラ見レバ是レニ劣ラヌ山ガ出サウナモノト考ヘテ居ル、是レハ全ク據所ノナイ漠トシタ推測デハナイ、尙ホ他ノ專門家ノ話ニ依ルト蕃地ヲ開發シタラ、必ラズ茶ヲ栽培スルニ適當ノ土地ガ少カラヌト云フ。其ノ外陸稻モ出來ヤウ、煙草モ相應ニ手入レヲシタラ宜イモノガ出來ヤウト推測シテ居ル、以上ノ中デ樟腦ト森林ト鑛山、此ノ三ツダケヲ考ヘテ見テモ、蕃地ノ値打ハ確カナモノデアラウト云フコトヲ判斷スルニ難カラヌノデアル。

次ニ蕃地ヲ開發スルト氣候ノ非常ニ宜イ所ガアル、今ハ何故ニ內地人カ臺灣ニハ餘リ行カナイカト云フト今マデハペスト、マラリヤ、土匪、生蕃、而シテ氣候ガ暑イ、斯フ云フコトデ臺灣ハ惡イ所ト思ハレテ居ルガ、併シ今ハペストハ殆ンドナク、マラリヤモ餘程減ジテ來タ、生蕃ハ今征服中デ何レ或年限ニ達スレバ治マルニ相違ハナイ、所ガドウシテモ除カレナイノハ暑サダ、是レアルガ爲ニ內地人ハ臺灣ニ閉口シテ居ルニ違ヒナイ、又內地人ノミナラズ、現ニ向フニ行ッテ居ル人モ、斯ク云フ吾々モ十數年行ッテ居ルガ暑サニ閉口シテ居ル、併シ今臺灣ニ暑クナイ所デ暮シ宜イ所ガ見出サレタラバ、餘程臺灣移住ノ念ヲ强クスルト同時ニ、臺灣領有ノ基礎ヲ固クスルト云フコトニナリ、サウスレバ單リ經濟上ニ於テノミナラズ、萬般ノ上ニ於テ大ナル利益ヲ得ルヤウニナルト思フ、所ガ今日ノヤウナ考ヘヲ有ッテ居ッタノデハ、第一臺灣領有其ノモノガ未來永劫續クカドウカト此ノ氣遣ヒガナキニシモアラズデアラウト思フ、ソレ故涼シクシテ內地人ノ生活ニ適當ナル場所ヲ探スト云フコトガ尤モ必要ナ事デアル、今マデ吾々ノ入ッタ所ダケデモ、風景ト云ヒ氣候ト云ヒ、內地ニ到底見ラレヌ所モアッテ、交通ノ便デモ開ケタラバ內地人ノ移住ニ差

支ヘナイト云フ所ハ隨分少ナクナイ、又此ノ交通機關ヲ設ケルト云フコトニ就テモ、元來地形ノ嶮岨ナ所ダカラ餘程困難デアラウガ、金ヲ掛ケテ贅澤ニシタナラバ單ニ蕃地ノ價値ヲ擧ゲルノミナラズ、臺灣ノ價値ヲ擧ゲルニ力アリト思フ、而シテ次ニ有望ナルハ水力デアル、臺灣ノ大サハ恰モ九州位デ其ノ九州位ノ中ニ富士ニ伯仲スル高山カ十指ヲ以テモ算ヘ切レヌ程アルカラ、水ノ豐富ナルコトハ云フマデモナイ、恰モ大キナタンクヲ山ノ上ニ備ヘテ居ルヤウナモノデアルガ、之レヲ利用シテ水力電氣ヲ起シ、或ハ灌漑用ニ使フト云フコトニスレバ、工業ナリ農業ナリノ發達ヲ助ケル事ハ非常ナモノデアラウ、是レ等モ矢張リ蕃界開發ノ結果トシテ伴ツテ來ル利益デアル。

大正三年十月廿二日印刷
大正三年十月廿八日發行
（非賣品）

發行人　大津麟平　嚴手縣盛岡市內丸知事官舍
印刷人　熊谷春治　嚴手縣盛岡市紺屋町廿一番戶
印刷所　嚴手活版所　嚴手縣盛岡市紺屋町廿一番戶

327
669

L22B-76

終